

2025年度

履修要綱

白鷗大学

教育学部 発達科学科

2025年度生

学籍番号

氏名

※この履修要綱は、卒業まで使用します。大切に保管してください（在学中一度のみ配付）。

2 0 2 5 年 度

履 修 要 綱

白鷗大学

教育学部 発達科学科

目 次

ー全学共通項目ー

履修の手続き.....	7
1. 履修科目の決定から履修登録完了までの流れ	
試験および成績.....	9
1. 単位の修得および成績評価	
2. レポート・課題	
3. 試験の種類・方法	
4. 成績	

ー科目履修案内ー

<全専攻共通>

教育課程.....	21
1. 単位の計算	2. 単位の認定
3. 授業科目の区分・性格等	4. 履修年次
5. 年間最高履修登録単位数（CAP制）	6. 進級について
7. 修業年限・在学年限	8. 卒業要件
9. カリキュラムの適用について	10. 履修系統図
11. 科目ナンバリング	
教職課程・保育士課程.....	26
1. 取得できる免許（資格）の種類及び組合せ	
2. 取得方法について	

目 次

I	児童教育専攻	29
1.	児童教育専攻	
(1)	Ⅰ群：外国語必修科目	(2) Ⅱ群：外国語・教養選択科目
(3)	Ⅲ群：専攻必修科目	(4)・(5) Ⅳ群：専門選択科目，Ⅴ群：卒業研究
(6)	自由選択	(7) 実習科目
(8)	他大学等の科目単位の認定、交換留学制度	(9) 随意科目
(10)	再履修について	
2.	カリキュラム表（教育学部 発達科学科 児童教育専攻）	
3.	児童教育専攻 卒業と免許・資格別所要単位数	
II	スポーツ健康専攻	49
1.	スポーツ健康専攻	
(1)	Ⅰ群：外国語必修科目	(2) Ⅱ群：外国語・教養選択科目
(3)	Ⅲ群：専攻必修科目	(4) Ⅳ群：専門選択科目
(5)	Ⅴ群：卒業研究	(6) 自由選択
(7)	実習科目	(8) 他大学等の科目単位の認定、交換留学制度
(9)	随意科目	(10) 再履修について
2.	カリキュラム表（教育学部 発達科学科 スポーツ健康専攻）	
3.	スポーツ健康専攻 卒業・免許別所要単位数	
III	英語教育専攻	65
1.	英語教育専攻	
(1)	Ⅰ群：外国語必修科目	(2) Ⅱ群：外国語・教養選択科目
(3)	Ⅲ群：専攻必修科目	(4) Ⅳ群：専門選択科目
(5)	Ⅴ群：卒業研究	(6) 自由選択
(7)	実習科目	(8) 他大学等の科目単位の認定、交換留学制度
(9)	随意科目	(10) 再履修について
2.	カリキュラム表（教育学部 発達科学科 英語教育専攻）	
3.	英語教育専攻 卒業・免許別所要単位数	
IV	心理学専攻	81
1.	心理学専攻	
(1)	Ⅰ群：外国語必修科目	(2) Ⅱ群：外国語・教養選択科目
(3)	Ⅲ群：専攻必修科目	(4) Ⅳ群：専門選択科目
(5)	Ⅴ群：卒業研究	(6) 自由選択
(7)	実習科目	(8) 他大学等の科目単位の認定、交換留学制度
(9)	随意科目	(10) 再履修について
2.	カリキュラム表（教育学部 発達科学科 心理学専攻）	
3.	心理学専攻 卒業・免許別所要単位数	
	履修要綱等の配付について	96

全学共通項目

履修の手続き

履修登録とは

履修登録とは、定められた期間に指定の方法で、大学において学ぶ科目を選択し登録する手続きです。この手続きが完了しないと授業を受けることはもちろん、その科目の試験を受けることもできず成績の評価もされません。

全ての授業科目は、大学の指定する期間に登録しなければなりません。

履修登録をするにあたり、各自卒業要件に照らして履修計画をたて、『履修要綱』および『シラバス（講義概要）』をよく読んだ上で、事前に時間割を作成しておいてください。

1. 履修科目の決定から履修登録完了までの流れ

(1) 白鷗大学のネットワークアカウントを取得する

履修登録はインターネット（ポータル）を利用して行います。

履修登録を行うには、白鷗大学のネットワークアカウントが必要です。

経営学部生は、履修ガイダンスを受け、「CampusPlan portal 学生用ユーザーガイド」を読んで対応してください。

法学部生および教育学部生は、入学時の「ネットワーク利用ガイダンス」を受けると、大学のネットワークアカウントが使用できるようになります。

(2) カリキュラムに関する書類

次の資料を参照し、受けたい授業や卒業に必要な単位数などを確認してください。

特に履修要綱は熟読し、活用してください。

下記については、大学ホームページにも掲載しています。

掲載場所：学生生活⇒学びサポート「履修」

	資料	内 容
①	履修要綱	カリキュラム（教育課程）や学修におけるルール、履修や試験・評価について、卒業に必要な単位などを掲載しています。（本冊子。1年次のみ配付し、卒業まで使用します。）
②	シラバス （講義概要）	シラバスには、白鷗大学のディプロマ・ポリシーとの関連の程度、授業の進め方（計画）、講義の目的、評価方法など、授業に関して詳細な事項が記載されています。どの授業を履修するか検討する際に重要となります。授業の進行状況に応じて、教員が内容を変更する場合があります。常に最新版のシラバスを Web で確認してください。
③	時間割	1年間の時間割や、履修登録に関する各日程や方法の詳細を掲載しています。前年度から変更となった事項なども掲載しますので、履修登録をする際には十分に確認してください。（最新年度の時間割を Web で確認してください。）
④	履修登録の手引き	
⑤	CampusPlan portal 学生ユーザーガイド	履修登録はインターネットに接続された自宅・学内のパソコンやスマートフォンで「ポータル（CampusPlan portal）」にログインして行います。「ポータル」での履修登録や確認の方法など、操作方法を掲載しています。

(3) 履修ガイダンス（新入生のみ）

年度始めにカリキュラムや授業・試験に関する説明を行います。授業の履修の仕方、授業出席の注意事項、定期試験受験の条件など、大学で授業を受け、単位を修得するために必要な事項の説明が主になります。

必ず出席し、不明な点は質問して解決してください。

(4) 時間割作成（学生が個々に作成）

ガイダンスを受講した後、配付物（履修要綱や時間割）を基に、どの科目を履修するかを1年間の時間割として学生が組み立てていきます。科目によっては、履修する曜日・時限が決められていたり（クラス指定など）、授業で使用する機器の事情から履修できる人数が決まっている場合があります。配付物とWeb シラバスで履修に関する注意事項を確認し、自分で時間割を作成してください。

なお、本キャンパス、大行寺キャンパス間の連続した時限の授業（昼休みをはさむ場合を除く）は、履修できません。

(5) 指定の履修登録期間に履修登録をする

『時間割』、『履修登録の手引き』で履修登録期間および履修登録可能時間を確認し、決められた期間に、自分で作成した時間割に基づいて履修登録をしてください。授業によっては、初回授業時に教室で抽選処理を行うことがありますので、確認して指示に従ってください。

* 履修登録に関する詳細な説明は、『時間割』、『履修登録の手引き』に掲載しています。

(6) 履修確認期間に履修状況を確認する

履修登録した科目内容はポータルの「Web 履修申請」のメニューから「履修状況表示（時間割）」で確認できます。履修登録した科目（抽選をおこなった授業で受講可となった科目を含む）の登録が完了しているか、確認してください。

(7) 履修登録科目を修正する必要がある場合

万一、登録されていない、修正する必要がある等の場合は、指定の修正期間中に修正登録を完了してください。

(8) 履修登録の確定

当該学期の履修登録が確定した授業科目について、「Web 履修申請」の「履修状況表示（時間割）」で確認し、エラーが解消されれば完了となります。

試験および成績

1. 単位の修得および成績評価

履修登録した授業科目の単位認定を受けるためには、定期試験を受験し合格しなければなりません。ただし、科目によっては、受講態度やレポート・課題、実技・実習等により行われる場合があります。各科目のシラバスに記載された成績評価の方法をよく確認してください。

2. レポート・課題

授業科目によりレポートや課題の提出が求められることがあります。
作成するレポート・課題について不正行為を疑われることのないよう、留意してください。

(1) レポート・課題における盗用・剽窃行為に関する注意について

剽窃は、他人の著作権を侵害する行為とみなされ、「H」評価となります。

※剽窃（ひょうせつ）とは 出典：現代用語の基礎知識

「他人の作品（全部、あるいは一部）を自分の作品であるかのように偽って公表すること」

・文献等から得た情報を本文に含める場合には、必ず出典を示す。

・文献等から得た情報を自分の言葉で言い換える（要約する）場合にも必ず出典を示す。

・直接引用（抜粋）する場合は、書き写した部分を必ず「」で括り、出典も示す。

※引用方法が異なる場合もあります。その場合は担当教員の指示に従ってください。

当然、友人と同じ内容のものを提出することも認められません。

盗用・剽窃行為は、「H」評価を受けるだけでなく懲戒の対象となることがあります。

(2) レポート・課題の公表について

レポート・課題は授業中に公表されるほか、授業支援システム（WebClass）、ポータルで発表する場合、学内掲示板に掲示する場合があります。

詳細や不明点は、担当教員に確認してください。

* 教員の出講日については教務課窓口で確認することができます。また、教員のオフィスアワーやWebClassでの連絡も活用してください。

(3) 提出時の注意事項

1) 表紙の有無、提出期限、提出場所など、担当教員の指示に従ってください。

教員メールBOXへの投函および郵送による提出は認められません。また、教務課窓口ではレポート提出を受けません。

2) 提出期限を過ぎたレポートは、いかなる理由があっても一切受理しません。

- (4) 授業支援システム (WebClass) へ提出の指示があった場合
 担当教員から「WebClass」へ提出の指示があった場合は、指示内容に従い作成したファイルを
 所定コースにアップロードしてください。
 アップロード後は、必ず提出期限前に提出状況を「マイレポート」から確認してください。
 ※WebClassの「コース」とは、履修科目のことです。
- (5) レポート用紙など紙媒体での提出の指示があった場合
- 1) 使用するレポート用紙について
 担当教員より「大学指定レポート用紙」の指示がある場合は、授業内で授業用レポート用紙が配
 付されます。「大学指定レポート用紙」の指定がない場合は、担当教員の指示に従って用意してく
 ださい。
 レポート用紙を配付した授業を欠席した場合には、担当教員へ申し出てください。
 教員から窓口での配付依頼があった場合のみ、「窓口配付用レポート用紙」を教務課窓口で渡し
 ます。
 - 2) レポート表紙について
 学科・専攻により異なる色のレポート表紙が、教務課窓口外に常時設置されています。
 表紙を添付するよう担当教員から指示された場合には、黒または青のペンで各項目を記入し、ホ
 チキスや紐で綴じてください。
 - 3) レポート回収ボックスについて
 担当教員から「レポート回収ボックス」へ提出の指示があった場合は、授業を実施しているキャン
 パスの「レポート回収ボックス」に提出してください。
 ボックスの科目名・担当教員名表示をよく確認し、投函してください。
 教務課では、投函後のレポートの取り出しはしません。

【設置場所】 2025年4月現在

本キャンパス	本館4階 南館連絡通路手前
大行寺キャンパス	本館1階ロビー入口（担当教員が非常勤教員の場合） 2号館3階エレベータ前（担当教員が専任教員の場合）

※次のようなレポートは、投函されても評価対象外となります。

- ①受付中ではないもの ※ボックスの表示をよく確認してください。
- ②別科目のボックスへ投函されたもの
- ③不備があるもの
 例) 氏名や学籍番号の記入忘れ
 表紙が綴じられていない（表紙添付の指示があった科目の場合）

3. 試験の種類・方法

(1) 試験の種類

定期試験については、7月と12月にポータル等で情報を公開します。

各試験の詳細は、掲示、履修要綱（本冊子）およびポータル等で確認し、不明な点は教務課に問い合わせてください。

■定期試験

前期および後期の年2回、一定の期間（学事日程参照）に時間割を決めて実施します。

1) 試験時間割

- ①実施する科目および時間割は、試験開始期間の1週間前までに発表します。
時間割発表後に変更が生じることもあります。試験前に再度確認してください。
- ②試験期間中の時間区分は、平常授業と異なりますので注意してください。

<定期試験期間中の時間区分>

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
9:00	10:30	13:00	14:30	16:00	17:30
}	}	}	}	}	}
10:00	11:30	14:00	15:30	17:00	18:30

※60分以上の試験科目が実施される場合もあります。

- ③原則として授業時間割どおりの曜日・時限で実施しますが、合同実施の科目や、試験時間が70分を超える科目など、授業時間割と異なる曜日・時限で実施する場合もありますので、よく確認してください。時間割の見間違いによる未受験は、追試験の対象となりません。
- ④週2回開講の科目については、どちらか一方の曜日・時限で実施します。
原則、試験期間中の早い方の曜日・時限で定期試験が実施されます。
- ⑤試験実施教室は、平常授業の実施教室と異なる場合があります。また、科目によっては複数の教室で実施する場合がありますので、所属学科・専攻や学籍番号を確認し、間違いのないように試験を受けてください。
- ⑥試験時間割発表後、災害など突発的な事情により試験を実施できなくなった場合の代替日として「試験予備日」を設定していますので、学事日程で確認しておいてください。試験予備日に実施することになった場合は、ポータル等で連絡します。

2) 受験資格

受験するにあたっては、次の条件をすべて満たしていることが必要です。なお、下記以外の事由により受験資格に欠格がある場合には、受験を認めません。

- ①当該試験科目について、所定期間内に履修登録を完了していること。
- ②授業料その他の学生納付金をすべて納入していること。
- ③原則として、当該科目のすべての授業回数の3分の2以上に出席していること。
※担当教員が受験資格を認定します。3分の2以上の出席は、不可抗力による欠席の可能性を考慮してのことであり、3分の1まで欠席してもよいということではありません。
- ④在学期間中であること。（休学期間、停学期間中ではないこと。）

3) 受験上の注意

受験の際は次の点に注意してください。

- ①受験科目は履修登録した授業科目に限ります。未登録の授業科目を受験しても、評価の対象にはなりません。
- ②指定された教室（座席が指定されている場合は指定座席）で受験すること。
- ③必ず「学生証」を持参し、机上に提示すること。（顔写真照合を行うため、表面にシール等がはられている場合は剥がしておくこと。）
- ④試験開始後30分を経過した場合は受験できません。また試験開始後40分を経過するまでは退室できません。（ただし、監督者が別に指示をする場合はそれに従うこと。）

※**公共交通機関の運行不能または20分以上の遅延により、遅刻した場合**の受験については、次のとおりです。なお、必ず20分以上の延着時分が記載された交通機関の遅延証明書が必要です。

- 1) 30分以内の遅刻の場合
定期試験を受験するか、追試験を受験するのかわを選択してください。追試験を受験する場合は、教務課窓口で手続きをしてください。
※試験問題を確認してからの選択はできません。
- 2) 30分を超えた遅刻の場合
定期試験を受験することはできません。
教務課窓口で手続きし、追試験を受験してください。
- ⑤筆記用具（ペンケース、下敷き不可）、時計および持込みを許されたもの以外は、鞆の中に入れて、足元などに置くこと。
携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチなどのウェアラブル端末等の通信機能を備えた電子機器は、必ず電源を切って鞆の中に入れること。机の上に置くことはもちろん、身につけること（ポケット収納を含む）も、認めません。
- ⑥ノート、参考書等の持込みが許可されている場合は、自分の物を使用しなければいけません。また「六法」の持込みが許可されている試験において、特に指示がないにもかかわらず、判例付き「六法」や書き込みのある「六法」を持込んだ場合は不正行為とみなします。
- ⑦通信機能のない電子機器の持込みは教員から特別に指示があった場合のみ認められます。（すべて可の場合でも特別に電子機器使用の許可がない場合は、持込みは認められません。）
- ⑧答案用紙（解答の有無にかかわらず）および出席カードに、学籍番号および氏名、その他必要事項を記入し、必ず提出すること。答案用紙を持ち帰ってはいけません。
- ⑨その他試験会場内におけるすべてのことは、監督者の指示に従うこと。

【受験時の学生証取扱について】

①学生証を忘れた場合

証明書発行機で「仮学生証」を発行してから受験してください。
仮学生証は、発行当日限り有効です。発行手数料が200円かかります。

②学生証で本人確認できない場合

印字が消えて読めない学生証や、顔写真が不鮮明で判別できない学生証は使用できません。必ず、試験期間前に再発行の手続きをしてください。新しい学生証は、申込み日の翌日（事務取扱休業日を除く）に渡します。
試験開始後に、試験監督者から指摘を受けた場合は、試験終了後「①学生証を忘れた場合」と同様に「仮学生証」を発行してください。また、同時に、学生証の再発行手続きもしてください。
※「仮学生証」の交付は定期試験期間のみ行います。定期試験の受験以外には使用できません。

4) 次の場合は、受験科目が失格または無効となる場合があります。

- ①指定された時間および試験場で受験しなかった場合（失格）
- ②学籍番号・氏名が記入されていない場合（失格）
- ③履修登録をしていない科目を受験した場合（無効）

5) 不正行為

不正行為があった場合は、ただちに答案を没収し、学則・規程に基づき後日処置（当期試験科目をすべて無効とする、学業特待生資格の喪失、訓告または停学・退学などの懲戒処分）を決定し、学籍番号、氏名、処置内容などの学内への公示や保証人への告知を行います。
不正行為については、『学生の手びき』巻末の「白鷗大学試験の不正行為者処置細則」または、大学ホームページ（諸規程）で確認してください。

■追 試 験

受験資格のある者が定期試験当日受験することができなかった場合、「白鷗大学試験実施規程」第8条に該当する場合、所定の手続きを経て認められたものに対し実施します。

1) 追試験が認められる事由

追試験が受験できる事由は、原則、下表の(1)～(8)のケースです。
下表の定期試験欠席の理由以外による追試験の申込みは、一切受け付けられません。学生は学業が優先であること、また、公的な欠席証明書の発行が出来ない事由であることを判断基準としています。

〔事由および必要書類（当該試験欠席を裏付ける第三者の証明書）〕

定期試験欠席の理由	必要な書類	受験料
(1) 天災その他の災害	官公庁の発行する被災証明書等	免除
(2) 公共交通機関の運行不能または遅延（20分以上の延着をいう。）	20分以上の延着時分が記載された交通機関の遅延証明書	免除

(3) 配偶者または三親等以内の親族の死亡による忌引	死亡診断書のコピーまたは会葬礼状(死亡日の記載があるものに限る。)	免除
(4) 就職試験(説明会、懇談会その他名称のいかんを問わず、出席しない場合に内定者選考上重大な不利益を受けるものを含む。)、教員採用試験、公務員採用試験又は入学試験	就職(採用)試験受験証明書または入学試験受験証明書(大学所定の用紙を使用したものに限る。)	
(5) 本学で定められた実習(教育実習、保育実習等)への参加	実習指導室の証明書	免除
(6) 負傷または疾病	医師の診断書(負傷または疾病のため、受診日に静養が必要である旨の記載があるものに限る。)または学校感染症治癒証明書(大学所定の用紙を使用したものに限る。)	△1
(7) 裁判員法(平成十六年法律第六十三号)に基づく裁判所からの呼出しに応じた出頭	裁判所が発行する証明書	免除
(8) その他教務委員会において相当と認める事由	教務委員会が提出をもとめたもの	△2

△1 学校感染症の場合は受験料免除。

△2 教務委員長の決定により受験料が免除される場合がある。

2) 手続期間

- ①試験時間割発表から、当該試験実施日の翌々日(事務取扱休業日を除く)までの事務取扱時間内とします。
- ②実習や就職試験など、あらかじめ定期試験を受験できないことが分かっている場合は、事前に手続きを行い、許可を受けてください。
- ③期間内に教務課窓口での手続きが困難な場合(入院など)は、必ず手続き期間内に電話で連絡してください。期間以降の対応はできません。

3) 手続方法

- ①「追試験願」に、欠席理由を証明するために必要な書類(当該試験欠席を裏付ける第三者の証明書)を添えて教務課窓口に出し許可を受けてください。
- ②原則として1科目につき1,000円の受験料を納入しなければなりません。
※免除されるときもあります。

4) 追試験日程

追試験日、時間割はポータル等で確認してください。

※受験の際は「学生証」とともに「追試験願控」を提示してください。

5) 注意

- ①定期試験欠席の理由(2)について
渋滞や事故などの自家用車通学による事由は、追試験対象外となります。

- ②定期試験欠席の理由(3)について
配偶者または三親等以内の親族の死亡による忌引きの場合、追試験の受験資格が認められる事由に係る期間は、配偶者等が死亡した日から起算して7日以内とします。
- ③定期試験欠席の理由(4)(5)について
就職試験等および実習等が遠方で実施される場合は、必要に応じてその前後の移動日も含める場合があります。
- ④定期試験欠席の理由(6)について
疾病が学校感染症に該当する場合は、静養期間が明記された医師の診断書または本学所定の「学校感染症治癒証明書」の交付を受けてください。
- ⑤追試験を受験しなかった場合、再度の追試験は行いません。
- ⑥追試験による成績評価は、定期試験での評価に準じます。100%評価となり、減点はありません。

■再 試 験

再試験は、「白鷗大学試験実施規程」第10条により年1回学年末に実施します。

第10条 卒業所要単位に不足する単位の数が8単位以内である当該年度に卒業見込の4年生（留年生を含む）は、当該不足を補うのに必要な限りで、次に掲げる要件をすべて満たす科目の試験を再度、受けることができる。

- (1) 当該年度に履修登録を行なった科目であること
 - (2) 成績評価が「D」となった科目であること
 - (3) 当該科目が、各学部教授会が再試験の受験を認めていないものでないこと
- 2 前項の試験は、年1回、学年末に実施する。

1) 手続期間・再試験日程

手続期間および再試験日、時間割はポータル等で確認してください。
※受験の際は「学生証」とともに「再試験願控」を提示してください。

2) 手続方法

- ①「再試験願」に必要事項を記入し、教務課窓口に提出し、許可を受けてください。
- ②1科目につき6,000円の受験料を納入してください。

3) 注意

- ①再試験を受験しなかった場合、再度の再試験は行いません。
- ②再試験で合格となった場合の成績評価は、「C2」となります。
- ③再試験の受験を認めていない科目は、次項目を参照してください。最新の一覧は、学生のとびき（キャンパスガイド）を参照してください。

- 4) 再試験の対象とならない科目(教育学部)
 教養特講(※再試験の有無については別途案内)
 専門特講(※再試験の有無については別途案内)
 他学部等履修科目のうち、当該他学部が再試験の対象としていないもの
 卒業所要単位数に含まれない科目
 ・実習科目
 ・「コンソーシアムとちぎ」での開講科目
 ・「放送大学科目」
 ・「随意科目」

【教育学部(2025年度入学者)】

全専攻共通科目			
フレッシュマンセミナー レクリエーション実技 レクリエーション実習 野外運動A(キャンプ) 野外運動B(雪上) 卒業研究 体育実技A/体育実技B(児童教育専攻・英語教育専攻・心理学専攻のみ) 海外留学(児童教育専攻・スポーツ健康専攻・心理学専攻のみ)			
児童教育専攻	スポーツ健康専攻		英語教育専攻
ゼミナール	陸上運動 器械運動 ダンス 身体運動演習(陸上運動) 身体運動演習(器械運動) 身体運動演習(表現運動) バスケットボール テニス サッカー 水泳 柔道 剣道 バレーボール 野球(ソフトボール) ラグビー	体づくり運動 スポーツ科学入門 トレーニング実習Ⅰ トレーニング実習Ⅱ ニュースポーツ 野外運動C(アド/バンス) 体育・スポーツ実践事例研究 スポーツ科学実験演習 スポーツ情報科学(入門) スポーツ情報科学(分析) スポーツインター シップⅠ スポーツインター シップⅡ 専門演習A 1 専門演習A 2 専門演習B 1 専門演習B 2	English Study Skills Communication Skills Speaking & Listening A Speaking & Listening B Speaking & Listening C Basic Writing Intermediate Writing Advanced Writing Academic Writing 発音トレーニング 課題研究 海外留学
			心理学専攻 心理学研究法 心理学実験Ⅰ 心理学実験Ⅱ 心理実習 心理演習Ⅰ(心理面接) 心理演習Ⅱ(心理検査) 外書講読 ゼミナール

4. 成績

評価

1) 単位の認定

履修登録した授業科目の単位認定を受けるためには、定期試験を受験し合格しなければなりません。ただし、科目によっては、筆記試験、レポート・課題提出、受講態度等により総合的に考慮して判定する場合や、実技・実習等により行われる場合もあります。

2) 単位認定条件

試験の受験資格に、原則として授業への出席（2／3以上）が挙げられているように、単位の認定は授業への出席を条件とします。

また、学生納付金が完納されない場合は、受験しても単位は認定されません。

3) 成績評価

学業成績の評価は、シラバスに記載されている評価の方法および以下の基準に基づき行われます。なお、評価の表示は次のようになります。

判定	合 格						不合格	失 格
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	再試験合格	認 定	59点以下	欠席多 試験・レポート等 放棄
	S	A	B	C1	C2	N	D	H

①C2評価は学部生のみが対象となります。

②就職活動等に使用する成績単位修得証明書には、SはA、C1・C2はCと記載され、D・Hは記載されません。

③Nは修得単位として認定されたものです。

④2年連続履修科目の1年目に当たる科目については、単位が付与されないため評価は「*」と表示されます。なお、この科目は成績単位修得証明書に表示されません。

成績発表

前期科目は8月中旬、通年・後期科目は2月下旬頃発表となりますので、ポータルの「Web 学生カルテ」メニューの「学生カルテ参照」「成績情報」で各自必ず確認してください。特に卒業見込生は細心の注意を払い、科目群ごとの卒業所要単位が充足されているか確認してください。合計単位数のみの確認では不十分です。成績発表日は、ポータル等で確認してください。

保証人の方は、専用サイト「アンシンサイト（インターネット上）」で案内します。なお、通年科目の単位は、前期および後期の成績を総合して判定し、評価を付して学年終了時に与えます。従って、半期のみ履修しても、単位は与えられません。

成績調査

成績評価を確認し、シラバスに記載された評価方法、評価の基準および試験実施規程に照らし合わせた結果、評価に疑問がある場合には、成績調査を申請することができます。

1) 成績調査期間

- ①前期科目・・・8月中旬の所定の期間
- ②通年・後期科目・・・2月下旬の所定の期間

2) 申請方法

成績調査申請書に必要事項を記入の上、所定期間に教務課に提出してください。
詳細はポータル指定リンク「定期試験（学生）」で確認してください。

卒業発表

卒業判定会議終了後、判定結果を保証人宛住所に通知するとともに、卒業確定者をポータル等で発表します。（3月上旬予定、9月卒業は9月中旬予定）

卒業確定者は、卒業式に出席し、卒業証書・学位記の授与を受けてください。

なお、卒業判定結果に関する電話・メールなどによる問い合わせには一切応じません。

科目履修案内

<全専攻共通>

教 育 課 程

単位制と単位について

大学における教育課程は、「大学設置基準」（文部科学省令の1つ）に定められている単位制に基づいています。

“単位制”とは、所定の授業科目を履修したうえで、その授業科目ごとに定められている単位を順次修得し、原則として4ヶ年の在学期間のうちに卒業に必要な単位を修得するという制度です。

単位制における“単位”とは、その授業科目の内容を会得するのに必要な学修時間を示したものであり、原則として1単位当たり45時間となっています。この時間には授業時間も含まれていますが、それはほんの一部にすぎません。したがって、単に授業を受けるだけではなく、担当教員の学修指導に従い、授業の予習や復習をしたり、自発的な学修をしなければなりません。

単位制と単位は、卒業要件を満たしていくうえで、最も基本的かつ重要な事項ですから、きちんと理解しておいてください。

全専攻
共通
教育課程

1. 単位の計算

本学では、1コマの授業を90分で行い、これを2時間として、大学設置基準に基づき、本学の学則により、次の範囲で単位を計算しています。

(注)・半期授業回数を15回として計算した場合
・通年授業回数を30回として計算した場合

授業形態別の単位に対する学修時間

授業形態	1単位あたりの時間数	週1回の授業 (1コマ90分)	1単位に対し45時間の学修時間が必要単位(学修必要時間)	授業回数	週1回の授業に対する学生の授業時間外の学修時間
講義科目・演習科目	授業15～30時間で1単位	半期授業	2単位(90時間)	15回	4時間
		通年授業	4単位(180時間)	30回	
		半期授業	1単位(45時間)	15回	1時間
		通年授業	2単位(90時間)	30回	
	週2回の科目	通年授業	4単位(180時間)	60回	1時間 (週2回で2時間)
及実 験実 ・技 実 習	授業30～45時間で1単位	学外での実習	2単位(90時間)		実習の種類により異なる 仮に1日8時間で計算すると11.3日間
			4単位(180時間)		
		半期授業	1単位(45時間)	15回	1時間
		通年授業	2単位(90時間)	30回	

(授業形態や授業内容、授業開講期間等によって単位数が異なる。)

2. 単位の認定

履修登録した授業科目の単位認定を受けるためには、定期試験を受験し合格しなければなりません。ただし、科目によっては、筆記試験、レポート・課題提出、受講態度等により総合的に考慮して判定する場合や、実技・実習等により行われる場合もあります。

履修登録する前に、この『履修要綱』および『シラバス（講義概要）』をよく読んで確認してください。

3. 授業科目の区分・性格等

授業科目の区分 授業科目は、次のように区分されています。

児童教育専攻・スポーツ健康専攻・英語教育専攻・心理学専攻	
I 群	外国語必修科目
II 群	外国語・教養選択科目
III 群	専攻必修科目
IV 群	専門選択科目
V 群	卒業研究

* 卒業所要単位には含まれない科目

実 習 科 目 *	
公認心理師 実習・演習科目 *	心理学専攻のみ
随 意 科 目 *	

授業科目の性格 授業科目の性格は、次のように区分されています。

- (1) 必修科目：必ず履修しなければならない科目
- (2) 選択必修科目：定められた一定の範囲の中から、必要な単位数や科目数だけ必ず履修しなければならない科目
- (3) 選択科目：履修するかどうかを自由に選択できる科目
- (4) 実習科目：当該免許・資格に開設された科目の履修を必要とするが、卒業単位に含まれない科目
- (5) 随意科目：卒業所要単位数には含まれない科目

セメスター制

本学では、“セメスター制”を導入しています。

セメスター制とは、1年間を前期と後期の2つの学期に分割し、その学期ごとに授業科目を開講・完結することを原則とする制度です。セメスター制の下では、定期試験や成績発表は学期ごとに行われます。

★注意：「時間割」は、年度始めに前期分と後期分を一括して発表します。

開講期間等

半期科目…前期または後期で授業を開講します。

通年科目…前期と後期の1年間を通して授業を開講します。

集中講義…1日に数時限集中して授業を行ったり、宿泊等で開講します。

4. 履修年次

履修年次 授業科目により、履修できる年次が決められています。これらの授業科目については、上級年次の学生が下級年次の授業科目を履修することはできますが、下級年次の学生が上級年次の授業科目を履修することはできません。
科目の性質によりステップを踏んで履修した方が、学修効果が上がるものもあるため、『履修要綱』・『シラバス（講義概要）』を参照し、学修手順に十分配慮して履修してください。

5. 年間最高履修登録単位数（CAP制）

年間最高履修登録単位数

教育学部では**45単位**です。

教育学部で前期と後期を合わせて1年間に履修できる単位の上限は**45単位**です。

CAP制とは、履修登録単位数の上限を設けることで十分な学修時間を確保してそれぞれの授業内容を深く身につけられるようにし、各年次にわたって適切に授業科目を履修してもらうための制度です。

そのため、各年次において1年間に45単位を越えて履修登録はできません。また、前期に登録した授業科目のうち、不合格等で単位を取得できなかった分の単位数について、後期に45単位を超えて履修登録することはできません。

★注意：実習科目・随意科目の単位など、これに含まれない科目があります。

6. 進級について

進級要件 進級に必要な要件はありません。休学等の場合を除き、自動的に4年次まで進級します。ただし、4年間で卒業所要単位数を充足できない場合には、4年次に留年することになります。

7. 修業年限・在学年限

修業年限 修業年限（大学で学ぶために必要な期間）は4年です。
在学年限 在学年限（在学可能な期間）は特別な場合を除き8年です。
〔「学則」参照のこと〕

8. 卒業要件

- 卒業要件**
- ①4年の修業年限を満たしていること。(休学・停学・除籍の期間は算入しません。)
 - ②学生納付金(学費)を完納していること。
 - ③卒業所要単位数を充足していること。

卒業認定 上記の3つの要件を満たした者は、教授会の議を経て、学長より卒業の認定を受けます。卒業の認定を受けたものには、卒業証書が授与されるとともに、“学士(発達科学)”の学位が与えられます。

卒業所要単位数

科目群名		児童教育専攻	スポーツ健康専攻	英語教育専攻	心理学専攻
I群	外国語必修科目	4単位	4単位	4単位	4単位
II群	外国語・教養選択科目	16単位	16単位	16単位	16単位
III群	専攻必修科目	1単位	1単位	1単位	1単位
IV群	専門選択科目	74単位	74単位	74単位	74単位
V群	卒業研究	4単位	4単位	4単位	4単位
自由選択		25単位	25単位	25単位	25単位
合計		124単位	124単位	124単位	124単位
実習科目		(注1)	(注1)	(注1)	(注1)
公認心理師 実習・演習科目		—	—	—	(注1)
随意科目		(注2)	(注2)	(注2)	(注2)

(注1) 当該免許・資格に開設された科目の履修を必要とするが、卒業所要単位に含まれない。

(注2) 卒業所要単位には含まれない。

9. カリキュラムの適用について

入学年度のカリキュラムが卒業するまで適用されます。

※カリキュラム、時間割等の資料を参照するときは、入学年度を十分に確認してください。

※科目の追加・変更がある場合は『時間割』、『履修登録の手引き』等で案内します。履修規程等も確認してください。

10. 履修系統図

履修系統図とは

学生が身に付けることが期待される知識・技能・態度と授業科目との間の対応関係や学修の道筋を示した図のことです。

履修系統図導入の目的

履修系統図を用いることにより、カリキュラム全体の構造を俯瞰できるようになります。その結果、学生は授業科目間のつながりなどを理解できるようになり、体系的に授業科目を履修する助けとなります。

掲載箇所

履修系統図については、大学ホームページをご覧ください。

11. 科目ナンバリング

科目ナンバリングとは

科目ナンバリングは、本学で開講している授業科目に適切な番号を付して分類することで、学修の段階や順序、授業科目間の関係性等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みです。

科目ナンバリング導入の目的

科目ナンバリングを用いることにより、授業科目の学問的位置づけや難易度等を表すことができます。

その結果、学生はどの科目から履修していけばよいかを理解できるようになり、適切な授業科目を選択する助けとなります。

掲載箇所

科目ナンバリングについては、大学ホームページをご覧ください。

教職課程・保育士課程

1. 取得できる免許（資格）の種類及び組合せ

所属学部・専攻等			取得できる免許（資格）の種類及び組合せ
教育学部 発達科学科	児童教育専攻	小学校教育コース	小学校教諭一種免許状 幼稚園教諭一種免許状
		幼児教育・保育コース	幼稚園教諭一種免許状 保育士資格
	スポーツ健康専攻		中学校教諭一種免許状（保健体育） 高等学校教諭一種免許状（保健体育）
	英語教育専攻		中学校教諭一種免許状（英語） 高等学校教諭一種免許状（英語）
	心理学専攻		中学校教諭一種免許状（社会） 高等学校教諭一種免許状（公民）

注意事項等については、該当入学年度の別冊「教員免許状および資格取得の手引き」に掲載しています。

不明な点は、実習指導室に問い合わせてください。

2. 取得方法について

免許および資格取得の詳細については、該当入学年度の別冊「教員免許状および資格取得の手引き」に掲載しています。

科目履修案内

<専攻別>

I 児童教育専攻

II スポーツ健康専攻

III 英語教育専攻

IV 心理学専攻

教育学部 発達科学科

児童教育専攻

スポーツ健康専攻

英語教育専攻

心理学専攻

I 兒童教育專攻

1. 児童教育専攻

○教育目的

児童教育専攻は、学生一人ひとりの豊かな個性を活かし、国際化する社会の中で広い視野を持ち、乳幼児・園児・児童への深い理解に基づいた実践的な指導力を身につけた、信頼される保育士・幼稚園教諭・小学校教諭を養成する。さらに、教育学および他の関連学問の研究者を目指して大学院へ進学する者、また公務員や民間企業の職員として幅広く活躍できる人材を育成する。

児童教育専攻 小学校教育コース

○カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針について）

児童教育専攻小学校教育コースでは、ディプロマ・ポリシーを踏まえ、学生が複合的学問体験を通して主体的に問題を発見し、それを解決しようとする経験を積むことができ、専門性を探究する能力を育てることを教育課程編成の基本精神としています。

教育課程は「外国語必修科目」「外国語・教養選択科目」「専攻必修科目」「専門選択科目」「卒業研究」の各科目群及び小学校教諭免許を取得するための「実習科目」によって構成されています。

1. 人間としての教養を深めるとともに、教育に関する専門的知識を身につけている。

「各種教養科目」「教育基礎論」「教育制度論」「教育課程論」「教育方法・技術論」「教育心理学」等

2. 教育の専門家としての使命感に基づき、実践的指導力の基礎を修得している。

「教育課程論」「教育心理学」「特別支援教育」「各教科概説Ⅰ（例：国語概説Ⅰ）」「各教科教育法（例：算数科教育法）」「初等教育実習」「教育実習の事前事後指導」「教職実践演習」等

3. 自らの専門性を探究するための研究方法を身につけている。

「フレッシュマンセミナー」「ゼミナール」「卒業研究」「各教科概説Ⅱ（例：国語概説Ⅱ）」等

4. 社会人として必要な基礎的な能力を修得している。

「ゼミナール」「卒業研究」「教職実践演習」「哲学」「論理学」「環境科学」「日本史概論」「外国史概論」「比較文化論」「文化人類学」「英語コミュニケーションⅠ A・Ⅰ B・Ⅱ A・Ⅱ B」等

○ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針について）

児童教育専攻小学校教育コースで「学士（発達科学）」を授与される学生は、学修の成果として以下のような能力を有することが求められます。

1. 人間としての教養を深めるとともに、教育に関する専門的知識を身につけている。

人間性豊かな教育の専門家となるために、教養を深めるとともに、教育に関する専門的知識を論理的、体系的に理解し、身につけている。その際、教育の専門家に要請される人間観や子ども観を問い続けるばかりでなく、教育の国際化、情報化などの現代的課題をも探究することができる。

2. 教育の専門家としての使命感に基づき、実践的指導力の基礎を修得している。

教育の専門家としての強い使命感に基づき、さまざまな発達上の課題を理解し、それにふさわしい授業を行うとともに、子どもの成長・発達を支え、適切に指導することができる能力としての教育における実践的指導力の基礎を修得している。子どものみならず、同僚、保護者、地域社会の関係者と関わり、支援を行い、それらを組織しうる教育経営者としての素養を修得している。

3. 自らの専門性を探究するための研究方法を身につけている。

教育学及び教育事象について幅広く理解するとともに、自らの専門性を探究し、教育の専門家として主体的に発達し続けるための研究方法を身につけている。

4. 社会人として必要な基礎的な能力を修得している。

子どもとの対話のみならず、同僚との協働や、保護者や地域社会の関係者との連携を図るためのコミュニケーション能力を身につけている。さまざまな課題に主体的に立ち向かうことができる論理的思考力を身につけ、それらの課題に同僚等と協働的に取り組み、問題発見したり、また解決したりすることができる。

わが国の歴史及び固有の文化に関する教養を深めるとともに、異なる歴史と文化を有する諸外国等にも理解と関心を持ち、異文化理解、多文化理解に努め、国際連帯の中で適切に行動しようとする態度を有する。また、そのために必要な自国語や外国語の能力を備えている。

児童教育専攻 幼児教育・保育コース

○カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針について）

教育課程の編成

児童教育専攻幼児教育・保育コースでは、ディプロマ・ポリシーを踏まえ、学生が複合的学問体験を通して主体的に問題を発見し、それを解決しようとする経験を積ませ、専門性の探究をなす能力を育てることを教育課程の編成の基本精神としています。「外国語必修科目」「外国語・教養選択科目」「専攻必修科目」「専門選択科目」「卒業研究」の各科目群及び幼稚園教諭免許・保育士資格を取得するための「実習科目」によって教育課程が編成されています。

児童教育専攻幼児教育・保育コースの教育課程の構造

ディプロマ・ポリシーとして示される児童教育専攻幼児教育・保育コースの学修成果と、科目群又は諸科目との関係は以下の通りです。

1. 教養を踏まえた専門的知識を身につけている。

「外国語必修科目」「外国語・教養選択科目」等の科目群、「教育基礎論」「保育原理」「社会福祉」「教師論」「保育者論」「子ども家庭福祉」「社会的養護」「教育制度論」「教育方法・技術論」「発達の科学」等

2. 幼児教育・保育の専門家としての使命感に基づき、遊びを通した総合的な実践ができる。

「子どもの理解と援助」「教育方法・技術論」「保育内容」「保育内容指導法」「幼児教育論」「保育実習指導Ⅰ（保育所）・（施設）」「保育実習Ⅰ（保育所）・（施設）」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習Ⅱ」「保育実践演習」「教育実習の事前事後指導」「初等教育実習（幼稚園）」「教職実践演習」「教育制度論」「乳児保育」「乳児保育の実践」「特別支援保育（基礎）・（展開）」「病児病後児保育」「子どもの保健」「子どもの食と栄養」「生活科概説」「国語概説」「算数概説」等

3. 自らの専門性を探究するための研究方法を身につけている。

「保育学の研究法」「フレッシュマンセミナー」「保育実践演習」「ゼミナール」「卒業研究」「造形Ⅰ・Ⅱ」「ソルフェージュⅠ・Ⅱ」「児童文学」等

4. 幼児教育・保育の専門家及び社会人に必要とされる基礎的な能力を身につけている。

「教師論」「保育者論」「発達心理学」「教育相談の理論と方法」「子ども家庭支援の心理学」「地域子育て支援」「子ども家庭支援論」「英語コミュニケーションⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」「情報処理」「保育実践演習」「ゼミナール」「卒業研究」等

○ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針について）

児童教育専攻幼児教育・保育コースで「学士（発達科学）」を授与される学生は、学修の成果として以下のような能力を有することが求められます。

1. 教養を踏まえた専門的知識を身につけている。

子どもの最善の利益を不断に追求しうる教養ある幼児教育・保育の専門家となるために、教育・保育に関する基本的知識を論理的・体系的に理解し、さらに、それを基盤にした深い専門的知識を身につけている。その際、幼児教育・保育の専門家に要請される、人間観及び子ども観を深い洞察に基づいて問い続けるような普遍的価値の探求のみならず、教育・保育の国際化、情報化といった現代的課題をも探求しようとすることができる。

2. 幼児教育・保育の専門家としての使命感に基づき、遊びを通した総合的な実践ができる。

文化伝達者として遊びを通した総合的な指導のあり方について不断に探究し、実践することができる。幼児教育・保育対象に関する柔軟な理解に努め、教育・保育環境や諸制度の変化に対応しうる判断力を持つ。また、子どものみならず、保護者、同僚、地域社会等に対する指導や支援をも行うことができる。

3. 自らの専門性を探究するための研究方法を身につけている。

幅広く教育学・保育学及び教育・保育事象について理解する一方で、自らの専門性を探究し、幼児教育・保育の専門家として主体的に発達し続けるための研究方法を身につけている。また、多様な表現手段を通して自らの得意分野を伸長することができたり、統合的な学修経験を積み重ねることによって幼児教育・保育の構想力の涵養に努めたりすることができる。

4. 幼児教育・保育の専門家及び社会人に必要とされる基礎的な能力を身につけている。

論理的及び協働的に思考しながら、自らの新たな課題を見出したり、課題を解決したりすることができる。また、幼児教育・保育の専門家に不可欠である子ども理解のために、子どもとの対話のみならず、同僚との協働性や、保護者及び地域社会との連携を図るためのコミュニケーション能力を身につけている。自らが関与する場でリーダーシップを発揮し、倫理的に実践しようとする事ができる。自らのコミュニケーション能力を磨き、多文化理解や異文化理解に努め、適切な表現に基づいた自国語や外国語のリテラシー能力を携えている。

— 各 科 目 の 履 修 方 法 に つ い て —

教育学部の授業科目は、卒業に必要なⅠ群～Ⅴ群および免許・資格取得に必要な実習等科目によって科目区分されている。Ⅰ群～Ⅴ群ごとに卒業に必要な単位数が決められている。

これに従って単位を修得しなければ、卒業要件を満たすことはできない。
「Ⅰ 教育課程－8. 卒業要件」(参照)

ここでは、卒業科目とその単位や履修年次および卒業するために必要な単位数などを表で表示している。どれも基本的かつ重要な事項のため、必ず熟読すること。

◆児童教育専攻 卒業所要単位

科 目 群 名	卒業所要単位
Ⅰ群 外国語必修科目	4単位
Ⅱ群 外国語・教養選択科目	16単位
Ⅲ群 専攻必修科目	1単位
Ⅳ群 専門選択科目	74単位
Ⅴ群 卒業研究	4単位
自 由 選 択	25単位
合 計	124単位
実 習 科 目	(注1)
随 意 科 目	(注2)

(注1) 当該免許・資格に開設された科目の履修を必要とするが、卒業所要単位に含まれない。

(注2) 卒業所要単位に含まれない。

(1) Ⅰ 群：外国語必修科目

Ⅰ 群：外国語必修科目……計2科目4単位が必修。

(2) II 群：外国語・教養選択科目

II 群の外国語・教養科目は全て選択科目となり、16単位以上修得すること。

教養特講について

教養特講は、教養科目の現行のカリキュラムにはないが、緊急に開講する必要があると思われる内容について講義する授業科目である。原則として単年度で開講され、() の内容が異なる場合には、複数履修することができる。

(3) III 群：専攻必修科目

III 群：専攻必修科目……………1 科目 1 単位必修。

「フレッシュマンセミナー」は文献資料の収集・整理・分析等の方法を学び、情報技術を体得し、教員や他の学生と討論する科目である。具体的には①大学の学習システムを理解すること。②「学ぶこと」の意味と方法を探ること。③キャンパスライフを豊かに送るために必要な情報を収集すること。④「読む」「書く」「発表する」など基本的能力を身につけることを目的とする。

Ⅰ
児童教育

(4)・(5) IV 群：専門選択科目，V 群：卒業研究

「ゼミナール」、「卒業研究」について

大学で履修する科目は、講義形式と演習形式に大別される。講義形式の科目は履修者も多く、説明や板書による授業が中心で、ともすれば教員が一方向的に内容を教授することが多い。これに対して演習形式の科目では、少人数の学生を対象とし、講義に加えて教員と学生の間でのディスカッションも行われ、双方向の授業が展開される。児童教育専攻には演習形式の科目が多数設定されているが、とりわけ「ゼミナール」と「卒業研究」では、担当教員と学生の間、学習・研究における指導は言うまでもなく、進路や人生の面にまで及ぶ人間関係が構築される。すなわち大学生活において最も学問探究の喜びを感じることができ、また人生について思索できる科目である。

3年次に履修する「ゼミナール」は、担当教員の専門分野ごとに10名前後の学生によって構成される。2年次の後期に教員ごとに研究テーマが発表され、学生は関心のある教員を選択することになる。なお応募人数の状況によっては、面接等によって選考を行うこともある。この科目は必修科目ではないが、4年次の「卒業研究」へとつながる重要な科目であるので、履修することが望ましい。

4年次で履修する「卒業研究」は、必修科目である。3年次の「ゼミナール」と同一の教員のもとで指導を受けることを原則とする。「ゼミナール」を履修しなかった学生は、担当教員を新たに選択することになるが、すでに「ゼミナール」から履修している学生だけで定員を満たしている教員の場合、希望に添えないこともある。この科目は卒業論文の作成が中心であり、担当教員の専門分野に即したテーマで論文を構想し、執筆することになる。なお、

研究領域によっては実技（制作や演奏等）を伴うことも考えられる。

なお、「卒業研究」は通年で履修することを原則とするが、海外留学等、特別の事情が認められた場合に限り、「卒業研究（半期4単位）」を履修することができる。

専門特講について

専門特講は、現行のカリキュラムにはないが緊急に開講する必要があると思われる内容について講義する授業科目である。原則として単年度で開講され、（ ）の内容が異なる場合には、複数履修することができる。

(6) 自由選択

卒業所要単位にあるように、卒業するためにはⅠ群～Ⅴ群における科目群に必要な卒業所要単位数を修得しなければならない。各必要単位を合計すると99単位となる。卒業の要件の単位は124単位のため、残り25単位を自由選択単位として修得しなければならない。

この25単位には、①Ⅰ群～Ⅴ群の卒業所要単位を超えて修得した単位および、②他大学・他学部・他専攻履修（一部の科目）で修得した単位を充てることができる。

①②のうち何を選択履修するかは自由であるが、まず所属専攻において何について勉強・研究したいのか、関心を深めたい分野は何であるのかをしっかりと見極めて、与えられた「自由」を十分に生かした4年間の学業プランを練るよう心がけること。

他学部・他専攻履修

履修可能な開講科目は『時間割』・『履修登録の手引き』で確認すること。

履修は開講先の所属学生が優先となるため、開講科目によっては履修条件や人数制限、事前登録が必要となる場合がある。

授業や試験に関する連絡事項等は、開講先の学部・学科（専攻）の掲示板を確認すること。

なお、教育学部の自由選択科目としての他学部等履修科目については、25単位を限度として、卒業所要単位として認定される。

(7) 実習科目

教育職員免許状や保育士資格取得に必要な科目で、課程登録をしている免許や保育士資格に該当する科目を修得しなければならない。この科目は卒業所要単位として算入されず、年間最高履修登録単位数には含まれない科目である。

(8) 他大学等の科目単位の認定、交換留学制度

他大学履修

他大学等で修得した科目の単位について、教育上有益と認められる場合には、教授会審議の上、本学の科目単位として学長が認める場合がある。申請については、『履修登録の手引き』

を確認すること。

交換留学制度

交換留学先の大学や募集要項については、国際交流サポートセンターへ問合せること。
募集要項は白鷗大学ホームページに掲載するので、希望者は所定期間内に志願し、手続きすること。

(9) 随意科目

卒業所要単位として算入されず、年間最高履修登録単位数に含まれない科目である。
科目が指定され、科目によっては履修対象者が限定されることがある。また、履修制限をすることがあるため、ポータル等に注意すること。

児童教育

単位互換制度

大学コンソーシアムとちぎ（栃木県内大学）、放送大学（互換対象科目指定）と単位互換協定を結んでいる。該当科目は随意科目となる。
大学コンソーシアムとちぎの詳細については、大学コンソーシアムとちぎホームページで確認すること。

(10) 再履修について

2年次以降に係わる履修

再履修とは 履修の結果「不合格」「失格」となった科目を再度履修すること。
必修科目は必ず履修しなければならないが、選択科目は別の科目を履修してもよい。

再履修方法 上級年次の学生は、下級年次配当の授業科目を履修できる。
各科目の再履修方法の概要は次のとおりである。
※未修得の学生も再履修者と同様の手続きが必要になる場合がある。
※クラスを指定している授業科目もあるので、ポータルや『時間割』・『履修登録の手引き』で確認すること。

I 群：外国語必修科目 1クラスの人数に制限があるため、教務課の指示に従うこと。

II 群：外国語・教養選択科目 開講科目の中から、必要単位分以上を修得する。別科目を選択してもよい。

III 群：専攻必修科目 再履修者の人数に応じて、再履修クラスを開講する場合がある。
特別に指示がない場合には、「時間割」に従って履修する。

Ⅳ群：専門選択科目・Ⅴ群：卒業研究

- ・特別に指示がない場合には、「時間割」に従って履修する。
- ・ゼミナールや卒業研究の科目は、事前に選考を受けなければならない。

上 記 以 外 の 科 目 実習科目…再履修は原則認めない。

2. カリキュラム表（教育学部 発達科学科 児童教育専攻）

科目区分		科目名	単位数	履修年次	授業方法	1単位時間数	卒業所要単位	卒業必修	小学校教育コース		幼児教育・保育コース	
Ⅰ群	外国語必修科目	英語コミュニケーションⅠA	1	1	演習	30	4単位	必	必	必	必	必
		英語コミュニケーションⅠB	1	1	演習	30		必	必	必	必	必
		英語コミュニケーションⅡA	1	2	演習	30		必	必	必	必	必
		英語コミュニケーションⅡB	1	2	演習	30		必	必	必	必	必
Ⅱ群	外国語・教養選択科目	基礎英語A	1	1～	演習	30	16単位					
		基礎英語B	1	1～	演習	30						
		ReadingⅠA	1	1～	演習	30						
		ReadingⅠB	1	1～	演習	30						
		ReadingⅡA	1	2～	演習	30						
		ReadingⅡB	1	2～	演習	30						
		WritingⅠA	1	1～	演習	30						
		WritingⅠB	1	1～	演習	30						
		WritingⅡA	1	2～	演習	30						
		WritingⅡB	1	2～	演習	30						
		VocabularyA	1	1～	演習	30						
		VocabularyB	1	1～	演習	30						
		ドイツ語ⅠA	2	1～	演習	30						
		ドイツ語ⅠB	2	1～	演習	30						
		ドイツ語ⅡA	1	2～	演習	30						
		ドイツ語ⅡB	1	2～	演習	30						
		ドイツ語ⅢA	1	2～	演習	30						
		ドイツ語ⅢB	1	2～	演習	30						
		フランス語ⅠA	2	1～	演習	30						
		フランス語ⅠB	2	1～	演習	30						
		フランス語ⅡA	1	2～	演習	30						
		フランス語ⅡB	1	2～	演習	30						
		フランス語ⅢA	1	2～	演習	30						
		フランス語ⅢB	1	2～	演習	30						
		スペイン語ⅠA	2	1～	演習	30						
		スペイン語ⅠB	2	1～	演習	30						
		スペイン語ⅡA	1	2～	演習	30						
		スペイン語ⅡB	1	2～	演習	30						
		スペイン語ⅢA	1	2～	演習	30						
		スペイン語ⅢB	1	2～	演習	30						
		中国語ⅠA	2	1～	演習	30						
		中国語ⅠB	2	1～	演習	30						

・「必・選・選必」は希望する免許・資格取得と卒業に対する印

Ⅰ
児童教育

科目区分		科目名	単位数	履修年次	授業方法	1単位時間数	卒業所要単位	卒業必修	小学校教育コース		幼児教育・保育コース	
Ⅱ群	外国語・教養選択科目	中国語ⅡA	1	2～	演習	30	(16単位)					
		中国語ⅡB	1	2～	演習	30						
		中国語ⅢA	1	2～	演習	30						
		中国語ⅢB	1	2～	演習	30						
		韓国語ⅠA	2	1～	演習	30						
		韓国語ⅠB	2	1～	演習	30						
		韓国語ⅡA	1	2～	演習	30						
		韓国語ⅡB	1	2～	演習	30						
		韓国語ⅢA	1	2～	演習	30						
		韓国語ⅢB	1	2～	演習	30						
		歴史学A	2	1～	講義	15						
		歴史学B	2	1～	講義	15						
		日本史概論	2	1～	講義	15						
		外国史概論	2	1～	講義	15						
		地理学A	2	1～	講義	15						
		地理学B	2	1～	講義	15						
		地理学概論（地誌を含む）	2	1～	講義	15						
		倫理学A	2	1～	講義	15						
		倫理学B	2	1～	講義	15						
		倫理学概論	2	1～	講義	15						
		哲学A	2	1～	講義	15						
		哲学B	2	1～	講義	15						
		哲学概論	2	1～	講義	15						
		文学A	2	1～	講義	15						
		文学B	2	1～	講義	15						
		論理学A	2	1～	講義	15						
		論理学B	2	1～	講義	15						
		国語表現法A	2	1～	講義	15						
		国語表現法B	2	1～	講義	15						
		美学A	2	1～	講義	15						
		美学B	2	1～	講義	15						
		比較文化論A	2	1～	講義	15						
		比較文化論B	2	1～	講義	15						
		文化人類学A	2	1～	講義	15						
		文化人類学B	2	1～	講義	15						

科目区分		科目名	単位数	履修年次	授業方法	1単位時間数	卒業所要単位	卒業必修	小学校教育コース		幼児教育・保育コース	
Ⅱ群	外国語・教養選択科目	社会学A	2	1～	講義	15	(16単位)					
		社会学B	2	1～	講義	15						
		法学A（国際法を含む）	2	1～	講義	15						
		法学B（国際法を含む）	2	1～	講義	15						
		統計学A	2	1～	講義	15						
		統計学B	2	1～	講義	15						
		心理学A	2	1～	講義	15						
		心理学B	2	1～	講義	15						
		社会心理学A	2	1～	講義	15						
		社会心理学B	2	1～	講義	15						
		政治学A（国際政治を含む）	2	1～	講義	15						
		政治学B（国際政治を含む）	2	1～	講義	15						
		情報社会科学A	2	1～	講義	15						
		情報社会科学B	2	1～	講義	15						
		環境科学A	2	1～	講義	15						
		環境科学B	2	1～	講義	15						
		代数学	2	1～	講義	15						
		解析学	2	1～	講義	15						
		数学概論A	2	1～	講義	15						
		数学概論B	2	1～	講義	15						
		物理学A	2	1～	講義	15						
		物理学B	2	1～	講義	15						
		化学A	2	1～	講義	15						
		化学B	2	1～	講義	15						
		生物学A	2	1～	講義	15						
		生物学B	2	1～	講義	15						
		科学史A	2	1～	講義	15						
		科学史B	2	1～	講義	15						
		日本国憲法	2	1～	講義	15			必	必	必	必
		健康科学	2	1～	講義	15						必
		健康と運動の科学	2	1～	講義	15						
		体育実技A	1	1～	実技	30			必	必	必	必
		体育実技B	1	1～	実技	30			必	必	必	
		情報処理	2	1～	演習	15			必	必	必	必
		マナーの基本	2	1～	講義	15						

・「必・選・選必」は希望する免許・資格取得と卒業に対する印

Ⅰ
児童教育

科 目 区 分			科 目 名	単位数	履修 年次	授業 方法	1単位 時間数	卒業所 要単位	卒業 必修	小学校教育コース		幼児教育・保育コース		
Ⅱ 群	教養選択科目 外国語・		キャリアデザイン	2	1～	講義	15	(16単位)						
			コミュニケーション能力を磨こう	2	1～	講義	15							
			データサイエンス基礎	2	1～	講義	15							
			教養特講（講義）	2	1～	講義	15							
			教養特講（演習）	1	1～	演習	30							
			海外留学	1～20	2～	講義	15		(単位認定)					
						演習	30		(単位認定)					
Ⅲ群	専攻必修科目		フレッシュマンセミナー	1	1	演習	30	1単位	必	必	必	必	必	
Ⅳ 群	専 門 選 択 科 目	教 科 ・ 領 域 専 門 科 目	国語概説Ⅰ（書写を含む）	2	1～	講義	15	74 単位		選必				
			国語概説Ⅱ（書写を含む）	2	3～	講義	15			選				
			社会科概説Ⅰ	2	1～	講義	15			選必				
			社会科概説Ⅱ	2	3～	講義	15			選				
			算数概説Ⅰ	2	1～	講義	15			選必				
			算数概説Ⅱ	2	3～	講義	15			選				
			理科概説Ⅰ	2	1～	講義	15			選必				
			理科概説Ⅱ	2	3～	講義	15			選				
			生活科概説Ⅰ	2	1～	講義	15			選必				
			生活科概説Ⅱ	2	3～	講義	15			選				
			音楽概説Ⅰ	2	1～	講義	15			選必				
			音楽概説Ⅱ	2	3～	講義	15			選				
			図画工作概説Ⅰ	2	1～	講義	15			選必				
			図画工作概説Ⅱ	2	3～	講義	15			選				
			家庭科概説Ⅰ	2	1～	講義	15			選必				
			家庭科概説Ⅱ	2	3～	講義	15			選				
			体育概説Ⅰ	2	1～	講義	15			選必				
			体育概説Ⅱ	2	3～	講義	15			選				
			小学校英語概説Ⅰ	2	1～	講義	15			選必				
			小学校英語概説Ⅱ	2	3～	講義	15			選				
			ソルフェージュⅠ	1	1～	演習	30			選	選	選		
			ソルフェージュⅡ	1	1～	演習	30			選	選	選		
			音楽実技ⅠA	1	1～	演習	30			選	選	選		
			音楽実技ⅠB	1	1～	演習	30			選	選	選		
			音楽実技ⅡA	1	2～	演習	30			選	選	選		
			音楽実技ⅡB	1	2～	演習	30			選	選	選		
			造形Ⅰ	1	1～	演習	30			選	選	選		

・「必・選・選必」は希望する免許・資格取得と卒業に対する印

児童教育

科目区分			科目名	単位数	履修年次	授業方法	1単位時間数	卒業所要単位	卒業必修	小学校教育コース 一 小学校 一 幼稚園 幼稚園 保育コース			
Ⅳ 群	専門選択科目	教科・領域専門科目	造形Ⅱ	1	3～	演習	30	(74単位)		選	選	選	
			造形教材研究	1	2～	演習	30			選	選	選	
			幼児と健康	1	2～	演習	30			<選必>			
			幼児と人間関係	1	2～	演習	30			<選必>			
			幼児と環境	1	2～	演習	30			<選必>			
			幼児と言葉	1	2～	演習	30			<選必>			
			幼児と表現	1	2～	演習	30			<選必>			
			保育内容概説	2	2～	講義	15			<選必>			
			保育内容特論	1	3～	演習	30					選	選必
		教科職専門科目	教育基礎論	2	1～	講義	15			必	必	必	必
			教師論	2	1～	講義	15			必	必	必	
			教育制度論	2	2～	講義	15			必	必	必	
			教育心理学	2	1～	講義	15			必	<選必>		
			特別支援教育	2	2～	講義	15			必	<選必>		
			教育課程論	2	1～	講義	15			必	<選必>		
			道徳教育の理論と方法	2	2～	講義	15			◆必	◆選*1	◆選	
			総合的な学習の時間の理論と方法	2	3～	講義	15			◆必			
			特別活動の理論と方法	2	2～	講義	15			◆必			
			教育方法・技術論	2	1～	講義	15			必	必	必	
			ICT活用の理論と方法	2	2～	講義	15			必	必	必	
			生徒・進路指導の理論と方法	2	2～	講義	15			◆必			
			幼児の理解と援助	1	2～	演習	30				<選必>		
			教育相談の理論と方法	2	2～	講義	15			必	必	必	
			保育内容指導法（健康）	2	3～	講義	15				◆必	必	
			保育内容指導法（人間関係）	2	3～	講義	15				◆必	必	
			保育内容指導法（環境）	2	3～	講義	15				◆必	必	
			保育内容指導法（言葉）	2	3～	講義	15				◆必	必	
			保育内容指導法（表現①）	2	3～	講義	15				◆必	必	
			保育内容指導法（表現②）	2	3～	講義	15				◆必	必	
			保育内容指導法（表現③）	2	3～	講義	15				◆必	必	
			国語科教育法	2	2～	講義	15			◆必			
			社会科教育法	2	2～	講義	15			◆必			
			算数科教育法	2	2～	講義	15			◆必			

・「必・選・選必」は希望する免許・資格取得と卒業に対する印
・「<選必>」は、該当コースで該当の免許取得を希望する場合、必修「必」となる。
・◆… 該当資格希望者のみ履修可能
・*1… 小一種 + 幼一種希望の場合、必修になるため「◆必」となる。

I
児童教育

科目区分			科目名	単位数	履修年次	授業方法	1単位時間数	卒業所要単位	卒業必修	小学校教育コース 一 小学校 種 園				幼児教育・保育コース 一 幼稚園 種 園		保育士
IV 群	専門選択科目	教職専門科目	理科教育法	2	2～	講義	15	(74単位)		◆必						
			生活科教育法	2	2～	講義	15			◆必						
			音楽科教育法	2	2～	講義	15			◆必						
			図画工作科教育法	2	2～	講義	15			◆必						
			家庭科教育法	2	2～	講義	15			◆必						
			体育科教育法	2	2～	講義	15			◆必						
			小学校英語科教育法	2	2～	講義	15			◆必						
		教科・領域 教職関連科目	教育法演習A	1	3～	演習	30			◆選						
			教育法演習B	1	3～	演習	30			◆選						
			教育法演習C	1	3～	演習	30			◆選						
			児童文学	2	2～	講義	15			選	選	選				
			音楽実技ⅢA	2	3～	演習	30									
			音楽実技ⅢB	2	4	演習	30									
			リトミック入門	1	2～	演習	30			選	選	選				
			リトミック応用	1	3～	演習	30									
			幼児教育論	2	2～	講義	15				選	選				
			比較教育論	2	2～	講義	15			選	選	選				
			人権教育	2	3～	講義	15			選	選	選				
		保育・福祉専門科目	保育原理	2	1～	講義	15								必	
			子ども家庭福祉	2	1～	講義	15								必	
			社会福祉	2	1～	講義	15								必	
			子ども家庭支援論	2	2～	講義	15								◆必	
			社会的養護Ⅰ	2	2～	講義	15								◆必	
			保育者論	2	1～	講義	15								必	
			発達心理学	2	2～	講義	15						<選必>		必	
			子ども家庭支援の心理学	2	2～	講義	15								必	
			子どもの理解と援助	1	1～	演習	30						<選必>		必	
			子どもの保健	2	1～	講義	15								必	
			子どもの食と栄養	2	3～	演習	30								◆必	
			保育とカリキュラム	2	3～	講義	15						<選必>		必	
			保育内容総論	1	2～	演習	30						<選必>		必	
			保育内容（健康）	1	2～	演習	30						<選必>		必	
			保育内容（人間関係）	1	2～	演習	30						<選必>		必	
			保育内容（環境）	1	2～	演習	30						<選必>		必	

・「必・選・選必」は希望する免許・資格取得と卒業に対する印
・「<選必>」は、該当コースで該当の免許取得を希望する場合、必修「必」となる。
・◆・・・該当資格希望者のみ履修可能

科目区分			科目名	単位数	履修年次	授業方法	1単位時間数	卒業所要単位	卒業必修	小学校教育コース		幼児教育・保育コース	
Ⅳ群	専門選択科目	保育・福祉専門科目	保育内容（言葉）	1	2～	演習	30	74単位		一 小学校 種 校	一 幼稚園 種 園	<選必>	必
			保育内容（表現）	1	2～	演習	30					<選必>	必
			子どもの生活と遊び（身体表現）	1	3～	演習	30					選	必
			子どもの生活と遊び（音楽表現）	1	3～	演習	30						必
			子どもの生活と遊び（造形表現）	1	3～	演習	30						必
			子どもの生活と遊び（児童文化）	1	3～	演習	30						必
			乳児保育	2	2～	講義	15						必
			乳児保育の実践	1	2～	演習	30						必
			子どもの健康と安全	1	2～	演習	30						必
			特別支援保育（基礎）	1	3～	演習	30					<選必>	必
			特別支援保育（展開）	1	3～	演習	30						必
			社会的養護Ⅱ	1	3～	演習	30						必
			地域子育て支援	1	3～	演習	30						必
			発達科学	2	1～	講義	15						選必
			保育臨床	1	3～	演習	30						選必
			多文化共生	1	2～	演習	30						選必
			青年心理学	2	2～	講義	15						選必
			保育学の研究法	2	2～	講義	15						選必
			病児病後児保育	1	3～	演習	30						選必
			楽器と演奏	1	3～	演習	30					選	選必
			絵本論	1	3～	演習	30						選必
			リズム遊び	1	3～	演習	30						選必
			おもちゃ論	1	3～	演習	30						選必
			社会福祉方法論	1	3～	演習	30						選必
		課題研究	ゼミナール	4	3～	演習	30						
		学科共通科目	福祉とボランティア	2	1～	講義	15						選
			教育の倫理学	2	1～	講義	15						選
			レクリエーション理論	2	2～	講義	15						
			レクリエーション実技	1	2～	演習	30						
			レクリエーション実習（◆レ）	1	3～	実習	30						
			野外運動A（キャンプ）	1	1～	演習	30						
			野外運動B（雪上）	1	1～	演習	30						
			救急法	2	1～	講義	15						
			Teaching English to Children	2	2～	講義	15						
			eラーニング	1	1～	演習	30						

・「必・選・選必」は希望する免許・資格取得と卒業に対する印
・「<選必>」は、該当コースで該当の免許取得を希望する場合、必修「必」となる。
・◆レ・・・レクリエーション・インストラクターの登録者で、教育実習または保育実習を履修していない者のみ履修可能

I
児童教育

科 目 区 分			科 目 名	単位数	履修 年次	授業 方法	1単位 時間数	卒業所 要単位	卒業 必修	小学校教育コース		幼児教育・保育コース		
Ⅳ 群	専 門 選 択 科 目	学 科 共 通 科 目	教育情報処理	2	1～	演習	30	(74 単位)						
			社会人口学	2	1～	講義	15							
			家族社会学	2	1～	講義	15							
			TOEICⅠ	1	1～	演習	30							
			TOEICⅡ	1	2～	演習	30							
			TOEFLⅠ	1	1～	演習	30							
			TOEFLⅡ	1	2～	演習	30							
			Picture Books	2	1～	講義	15							
		特 講	専門特講（講義）	2	1～	講義	15							
			専門特講（演習）	1	1～	演習	30							
Ⅴ群	卒業研究	卒業研究	4	4	演習	30	4単位	必	必	必	必	必		
自由選択			・Ⅱ群の最低修得単位を超えた単位数 ・Ⅳ群の最低修得単位を超えた単位数 ・他学部・他専攻科目（指定科目）					25 単位						
卒 業 所 要 単 位									124 単位					

・「必・選・選必」は希望する免許・資格取得と卒業に対する印

科目区分	科目名	単位数	履修年次	授業方法	1単位時間数	卒業所要単位	小学校教育コース				幼児教育・保育コース			
							一 小 学 校 種 校	一 幼 稚 園 種 園	一 幼 稚 園 種 園	保 育 士	一 小 学 校 種 校	一 幼 稚 園 種 園	一 幼 稚 園 種 園	保 育 士
実習科目	教育実習の事前事後指導P	1	2～ (注1)	講義	30	卒業単位に 含まれない (注3)	◆必	◆必	◆必					
	初等教育実習Ⅰ	4	3～	実習	30		◆必	◆必 *2	◆必					
	初等教育実習Ⅱ	2	3～	実習	30		※	◆選 *1	※					
	初等教育実習Ⅲ	2	3～	実習	30		※	※	※					
	教職実践演習（幼・小）（注2）	2	4	演習	15		◆必	◆必	◆必					
	保育実習指導Ⅰ（保育所）	1	3～	演習	30									◆必
	保育実習指導Ⅰ（施設）	1	3～	演習	30									◆必
	保育実習Ⅰ（保育所）	2	3～	実習	45									◆必
	保育実習Ⅰ（施設）	2	3～	実習	45									◆必
	保育実習指導Ⅱ	1	4	演習	30									◆選必
	保育実習Ⅱ	2	4	実習	45									◆選必
	保育実習指導Ⅲ	1	4	演習	30									◆選必
	保育実習Ⅲ	2	4	実習	45									◆選必
	保育実践演習（注2）	2	4	演習	15									◆必

（注1）3年次で履修
（注2）該当の実習を修了していないと履修できない。
（注3）該当の実習の事前事後指導と該当の実習が完了しないと単位は付与されない。
・「必・選・選必」は希望する免許・資格取得と卒業に対する印
・◆・・・該当資格希望者のみ履修可能
・*1・・・小一種＋幼一種希望の場合、必修になるため「◆必」となる。
・*2・・・小一種＋幼一種希望の場合、幼稚園実習は、「初等教育実習Ⅰ」ではなく、「初等教育実習Ⅱ」が必修「◆必」となる。
・※・・・許可された者のみ

児童教育

3. 児童教育専攻 卒業と免許・資格別所要単位数

卒業所要単位	124		
免許・資格名	小学校一種免	幼稚園一種免	保育士
実習科目（注）	7	7	11
合計単位	131	131	133

（注）希望する免許・資格等の該当実習科目の履修を必要とするが、卒業所要単位には含まれない。

Ⅱ スポーツ健康専攻

1. スポーツ健康専攻

○教育目的

スポーツ健康専攻では、スポーツ・健康科学と教育学について学ぶことができる。中学校・高等学校の保健体育教諭、新しいスポーツや健康産業の担い手となる人材を育てるため、体育・スポーツ科学の基礎理論をベースに、体育実技、専門機器を用いた測定技術や医学的基礎知識の修得、およびスポーツリハビリテーションやレクリエーションなど、教育現場だけでなく広く社会一般で役立つ知識の習得を目的としている。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針について）

スポーツ健康専攻の教育課程を構成する体育・スポーツ科学に関する専門科目は、主に2年次までに履修する「基礎的な科目」と2年次以降に履修する「発展的な科目」とに大別することができます。この他、地域や民間企業等で活躍するゲストを招いた講義や、逆にインターンシップにより自らが現場へ飛び込んでいく機会など、理論・実技と多様な実践現場とをつなぐ「実践研究科目」があります。

こうした科目配置には、体育・スポーツ科学の基礎を学んだ後に、多様な実践現場の現状やそこでの指導に関する知識を得て、自己の関心に応じた専門的理論や指導法の学びに立ち返るという、理論と実践の往還を生み出すねらいがあります。このプロセスを経た後に、3年次以降の「卒業研究関係科目」において自己の問題意識に基づく研究課題に取り組んでいきます。

1. スポーツ指導や支援の基礎となる幅広い教養や専門的知識を身につけている。

〔基礎的な科目〕

「スポーツ科学入門」「体育原理」「運動生理学」「運動学Ⅰ・Ⅱ」「体育・スポーツ経営学」「トレーニング論Ⅰ・Ⅱ」「体育心理学」「衛生・公衆衛生学」など

〔発展的な科目〕

「スポーツ医学概論」「スポーツリハビリテーション論」「スポーツ指導のバイオメカニクス」「運動と健康（運動処方論）」「スポーツマーケティング」「スポーツ栄養学」など

〔教養を身につける科目〕

「教養科目全般」「語学関係科目」「情報処理関係科目」

2. 質の高いスポーツ指導や支援を可能にする実践的技能を身につけている。

〔基礎的な科目〕

「実技科目全般」「トレーニング実習Ⅰ・Ⅱ」「救急法」「スポーツコーチング総論」「競技スポーツ理論」「レクリエーション理論・実技」「野外運動」など

〔発展的な科目〕

「スポーツ指導者論Ⅰ・Ⅱ」「障害者スポーツ」「ニュースポーツ」など

〔教職関係の科目〕

「保健体育科教育法Ⅰ～Ⅳ」「中等教育実習」「教育実習の事前事後指導」「教職実践演習」等

3. 自らの関心に基づく科学的探求を可能にする研究方法を身につけている。

〔基礎的な科目（初年度教育）〕

「フレッシュマンセミナー」

〔発展的な科目〕

「健康・スポーツの測定と評価」「スポーツ情報科学（入門／分析）」など

〔実践研究科目〕

「スポーツ科学実験演習」

〔卒業研究関係科目〕

「専門演習A・B」「卒業研究」

4. 社会におけるスポーツ文化の普及の実践者としての基礎的能力を身につけている。

〔教養を身につける科目〕

「キャリアデザイン関係科目」など

〔実践研究科目〕

「体育・スポーツ実践事例研究」「スポーツインターンシップⅠ・Ⅱ」

○ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針について）

スポーツ健康専攻の目的は、学校体育や生涯スポーツ、競技スポーツをはじめとした多様な体育・スポーツの実践現場において、人々と体育・スポーツとの正しい関わりと活動成果を生みだし、体育・スポーツの持つ教育的・文化的価値の普及を担う指導者を育成していくことです。科学的知識に基づく適切で質の高い指導や、スポーツ文化の普及に向けた組織的活動の推進に力を発揮する人材を育成していきます。

スポーツ健康専攻で「学士（発達科学）」を授与される学生は、卒業時に以下の知識や技能、その他の力量を身につけることが求められます。

1. スポーツ指導や支援の基礎となる幅広い教養や専門的知識を身につけている。

体育・スポーツ科学の全体像を理解した上で、各学問領域について体系的に学び、広く専門的知識を身につけている。また、豊かな人間性形成の基礎となり、同時に体育・スポーツ科学を学ぶ基礎ともなる教養を、自らの知的好奇心に基づき多彩な学問領域の中から選択し身につけている。

2. 質の高いスポーツ指導や支援を可能にする実践的技能を身につけている。

専門種目のみならず幅広いスポーツ種目を経験し、多彩な実技の実践力を身につけている。また、学校体育における児童・生徒からトップレベルの競技者まで、多様な対象を想定した実技指導の方法を学び、質の高い指導・支援を可能にする実践力を身につけている。

3. 自らの関心に基づく科学的探求を可能にする研究方法を身につけている。

広範な体育・スポーツ科学の領域の中から、自己の研究的関心や実践的課題意識に基づき、特定の領域を深く掘り下げて科学的に探求していくことを可能にする研究方法を身につけてい

る。実験や社会調査（インタビューやフィールドワークなど）の適切な手法を用いて、自ら設定した研究課題に取り組んでいくことができる。

4. 社会におけるスポーツ文化の普及の実践者としての基礎的能力を身につけている。

文化としてのスポーツは、それに関わる個人の心身に効果をもたらし、人と人との関わりを促進し、地域や社会を活性化させる働きを持っている。こうしたスポーツ文化の普及を担う実践者として、リーダーシップやホスピタリティ、コミュニケーション等の能力を身につけている。

— 各 科 目 の 履 修 方 法 に つ い て —

教育学部の授業科目は、卒業に必要なⅠ群～Ⅴ群および免許・資格取得に必要な実習等科目によって科目区分されている。Ⅰ群～Ⅴ群ごとに卒業に必要な単位数が決められている。

これに従って単位を修得しなければ、卒業要件を満たすことはできない。

「Ⅰ 教育課程－8. 卒業要件」（参照）

ここでは、卒業科目とその単位や履修年次および卒業するために必要な単位数などを表で示している。どれも基本的かつ重要な事項のため、必ず熟読すること。

Ⅱ
スポーツ

◆スポーツ健康専攻 卒業所要単位

科 目 群 名	卒業所要単位
Ⅰ群 外国語必修科目	4単位
Ⅱ群 外国語・教養選択科目	16単位
Ⅲ群 専攻必修科目	1単位
Ⅳ群 専門選択科目	74単位
Ⅴ群 卒業研究	4単位
自 由 選 択	25単位
合 計	124単位
実 習 科 目	(注1)
随 意 科 目	(注2)

(注1) 当該免許に開設された科目の履修を必要とするが、卒業所要単位に含まれない。

(注2) 卒業所要単位に含まれない。

(1) I 群：外国語必修科目

I 群：外国語必修科目……計2科目4単位が必修。

(2) II 群：外国語・教養選択科目

II 群の外国語・教養科目は全て選択科目となり、16単位以上修得すること。

教養特講について

教養特講は、教養科目の現行のカリキュラムにはないが、緊急に開講する必要があると思われる内容について講義する授業科目である。原則として単年度で開講され、() の内容が異なる場合には、複数履修することができる。

(3) III 群：専攻必修科目

III 群：専攻必修科目……………1科目1単位必修。

「フレッシュマンセミナー」は文献資料の収集・整理・分析等の方法を学び、情報技術を体得し、教員や他の学生と討論する科目である。具体的には①大学の学習システムを理解すること。②「学ぶこと」の意味と方法を探ること。③キャンパスライフを豊かに送るために必要な情報を収集すること。④「読む」「書く」「発表する」など基本的能力を身につけることを目的とする。

(4) IV 群：専門選択科目

IV 群：専門選択科目は「教科専門科目」、「教科関連科目」、「教職専門科目」、「学科共通科目」から構成されている。このうち「教職専門科目」は中学・高校の保健体育科教員免許取得に必要な教職の科目を指し、「学科共通科目」は専攻を問わず、教育学部の学生に履修を勧める科目が配置されている。以下には「教科専門科目」、「教科関連科目」について、その意味や履修上の注意点などを説明する。

「教科専門科目」は保健体育やスポーツに関わる基礎科目であり、教員免許を取得する上で必須となる教科の基礎実技や基礎理論を含んでいる。また、「教科関連科目」は「専攻専門科目」と「実践研究」から成り、「教科専門科目」で学ぶ基礎的な実技や理論を土台として、更なる「専門性」の積み上げを目指す科目である。

スポーツ健康専攻における「専門性」の学びは、体育・スポーツ科学全般に関する「幅広い知識」の獲得と、その中から選択される特定領域における「深い専門的知識」や「研究的探求」とに集約される。このどちらも大切なことであり、「幅広い知識」を得ることなく、特定領域を選択し「研究的探求」を進めていくだけでは、真の意味で「専門性」を身につけたとはいえない。

Ⅳ群の「専攻選択科目」のうち、「教科専門科目」は体育・スポーツ科学の基礎を成す「幅広い知識」を学ぶものであり、「教科関連科目」は「深い専門的知識」、「研究的探求」の向上を目指すものである。両者のバランスを考え、バラエティに富む科目構成でカリキュラムは構成されている。

「教科関連科目」のうち「専攻専門科目」は学生個々人の興味関心に基づき、履修科目を選択するものである。体育・スポーツ科学の中で「深い専門的知識」の獲得を目指し、自身の専門領域を絞り込むきっかけとしてもらいたい。

また、「実践研究」は、単なる知識（理論）や運動技術の習得にとどまらず、多様な体育、中でも「専門演習」は「実践研究」の中核を占める科目であり、「研究的探求」を促進することをねらいとするものである。「専門演習」の内容は、体育・スポーツ科学を構成する個々の専門領域ごとに設定されており、各専門領域の視点から、具体的な体育・スポーツ現象に切り込み、その分析や考察の方法、つまり「研究的探索」の方法を学ぶことをねらいとしている。3年次に1つの領域を選択し、4年次の「卒業研究」へつなげるという連続性を持つ重要な科目である。同一教員の開講する「専門演習」と「卒業研究」を継続して履修することにより、「深い専門的知識」の獲得を図る。

専門特講について

専門特講は、現行のカリキュラムにはないが緊急に開講する必要があると思われる内容について講義する授業科目である。原則として単年度で開講され、（ ）の内容が異なる場合には、複数履修することができる。

スポーツインターンシップⅠ・Ⅱについて

この科目は、インターンシップ受け入れ先企業・組織で実習を行う科目である。

受け入れ可能人数・希望者数等の状況により調整を行うため、ガイダンスを実施する。

ガイダンス日程は、ポータル等で連絡する。

なお、この科目は、インターンシップ修了者に対して、大学が履修登録を行い、単位付与するものであるため、年間最高履修登録単位数には含まれない。

(5) V群：卒業研究

「卒業研究」はスポーツ健康専攻における4年次必修の科目であり、卒業論文を作成することを主たるねらいとするものである。

3年次の「専門演習」における学びの中から、自身の最も興味関心のある領域を決定し「卒業研究領域」として選択する。4年次の1年間、選択した領域の指導教員の指導を受けながら、自己の問題意識に基づき研究テーマを設定し、卒業論文の作成に取り組んでいく。具体的には、「研究課題の明確化」、「研究目的の設定」、「研究方法の選択」、「論文としてのまとめ方」など一連の研究遂行に関わる知識や方法を学び、その成果を卒業論文にまとめる。「卒業研究」の履修に際しては、その領域の担当教員の「専門演習」を履修していることを原則とする。その他、3年次終了時点での総単位数の条件等は特に定めない。

なお、「卒業研究」は通年で履修することを原則とするが、海外留学等、特別の事情が認められた場合に限り、「卒業研究（半期4単位）」を履修することができる。

(6) 自由選択

卒業所要単位にあるように、卒業する為にはⅠ群～Ⅴ群における科目群に必要な卒業所要単位数を修得しなければならない。各必要単位を合計すると99単位となる。卒業の要件の単位は124単位のため、残り25単位を自由選択単位として修得しなければならない。この25単位には、①Ⅰ群～Ⅴ群の卒業所要単位数を超えて修得した単位および、②他大学・他学部・他専攻履修（一部の科目）で修得した単位を充てることができる。

①②のうち、何を選択履修するかは自由であるが、まず所属専攻において何について勉強・研究したいのか、関心を深めたい分野は何であるのかをしっかりと見極めて、与えられた「自由」を十分に生かした4年間の学業プランを練るよう心がけること。

他学部・他専攻履修

履修可能な開講科目は『時間割』・『履修登録の手引き』で確認すること。

履修は開講先の所属学生が優先となるため、開講科目によっては履修条件や人数制限、事前登録が必要となる場合がある。

授業や試験に関する連絡事項等は、開講先の学部・学科（専攻）の掲示板を確認すること。

なお、教育学部の自由選択科目としての他学部等履修科目については、25単位を限度として、卒業所要単位として認定される。

(7) 実習科目

教育職員免許状取得に必要な科目で、課程登録をしている免許に該当する科目を修得しなければならない。この科目は卒業所要単位として算入されず、年間最高履修登録単位数には含まれない科目である。

(8) 他大学等の科目単位の認定、交換留学制度

他大学履修

他大学等で修得した科目の単位について、教育上有益と認められる場合には、教授会審議の上、本学の科目単位として学長が認める場合がある。申請については、『履修登録の手引き』を確認すること。

交換留学制度

交換留学先の大学や募集要項については、国際交流サポートセンターへ問合せること。募集要項は白鷗大学ホームページに掲載するので、希望者は所定期間内に志願し、手続きすること。

(9) 随意科目

卒業所要単位として算入されず、年間最高履修登録単位数に含まれない科目である。
科目が指定され、科目によっては履修対象者が限定されることがある。また、履修制限をすることがあるため、ポータル等に注意すること。

単位互換制度

大学コンソーシアムとちぎ（栃木県内大学）、放送大学（互換対象科目指定）と単位互換協定を結んでいる。該当科目は随意科目となる。

大学コンソーシアムとちぎの詳細については、大学コンソーシアムとちぎホームページで確認すること。

(10) 再履修について

2年次以降に係わる履修

再履修とは 履修の結果「不合格」「失格」となった科目を再度履修すること。
必修科目は必ず履修しなければならないが、選択科目は別の科目を履修してもよい。

再履修方法 上級年次の学生は、下級年次配当の授業科目を履修できる。
各科目の再履修方法の概要は次のとおりである。

※未修得の学生も再履修者と同様の手続きが必要になる場合がある。

※クラスを指定する場合があるので、ポータルや『時間割』・『履修登録の手引き』で確認すること。

I 群：外国語必修科目 1クラスの人数に制限があるため、教務課の指示に従うこと。

II 群：外国語・教養選択科目 開講科目の中から、必要単位分以上を修得する。別科目を選択してもよい。

III 群：専攻必修科目 再履修者の人数に応じて、再履修クラスを開講する場合がある。
特別に指示がない場合には、「時間割」に従って履修する。

IV 群：専門選択科目・V 群：卒業研究

- ・特別に指示がない場合には、「時間割」に従って履修する。
- ・専門演習や卒業研究の科目は、事前に選考を受けなければならない。

上記以外の科目 実習科目…再履修は原則認めない。

2. カリキュラム表（教育学部 発達科学科 スポーツ健康専攻）

科目区分		科目名	単位数	履修年次	授業方法	1単位時間数	卒業所要単位	卒業必修	中一種(保体)	高一種(保体)	中一種高一種(保体)
Ⅰ群	外国語必修科目	英語コミュニケーションⅠA	1	1	演習	30	4単位	必	必	必	必
		英語コミュニケーションⅠB	1	1	演習	30		必	必	必	必
		英語コミュニケーションⅡA	1	2	演習	30		必	必	必	必
		英語コミュニケーションⅡB	1	2	演習	30		必	必	必	必
Ⅱ群	外国語・教養選択科目	基礎英語A	1	1～	演習	30	16単位				
		基礎英語B	1	1～	演習	30					
		ReadingⅠA	1	1～	演習	30					
		ReadingⅠB	1	1～	演習	30					
		ReadingⅡA	1	2～	演習	30					
		ReadingⅡB	1	2～	演習	30					
		WritingⅠA	1	1～	演習	30					
		WritingⅠB	1	1～	演習	30					
		WritingⅡA	1	2～	演習	30					
		WritingⅡB	1	2～	演習	30					
		Vocabulary A	1	1～	演習	30					
		Vocabulary B	1	1～	演習	30					
		ドイツ語ⅠA	2	1～	演習	30					
		ドイツ語ⅠB	2	1～	演習	30					
		ドイツ語ⅡA	1	2～	演習	30					
		ドイツ語ⅡB	1	2～	演習	30					
		ドイツ語ⅢA	1	2～	演習	30					
		ドイツ語ⅢB	1	2～	演習	30					
		フランス語ⅠA	2	1～	演習	30					
		フランス語ⅠB	2	1～	演習	30					
		フランス語ⅡA	1	2～	演習	30					
		フランス語ⅡB	1	2～	演習	30					
		フランス語ⅢA	1	2～	演習	30					
		フランス語ⅢB	1	2～	演習	30					
		スペイン語ⅠA	2	1～	演習	30					
		スペイン語ⅠB	2	1～	演習	30					
		スペイン語ⅡA	1	2～	演習	30					
		スペイン語ⅡB	1	2～	演習	30					
		スペイン語ⅢA	1	2～	演習	30					
		スペイン語ⅢB	1	2～	演習	30					
		中国語ⅠA	2	1～	演習	30					
		中国語ⅠB	2	1～	演習	30					

・「必・選・選必」は希望する免許・資格取得と卒業に対する印

Ⅱ
スポーツ

科目区分		科目名	単位数	履修年次	授業方法	1単位時間数	卒業単位	卒業必修	中一種(保体)	高一種(保体)	中一種高一種(保体)
Ⅱ群	外国語・教養選択科目	中国語ⅡA	1	2～	演習	30	(16単位)				
		中国語ⅡB	1	2～	演習	30					
		中国語ⅢA	1	2～	演習	30					
		中国語ⅢB	1	2～	演習	30					
		韓国語ⅠA	2	1～	演習	30					
		韓国語ⅠB	2	1～	演習	30					
		韓国語ⅡA	1	2～	演習	30					
		韓国語ⅡB	1	2～	演習	30					
		韓国語ⅢA	1	2～	演習	30					
		韓国語ⅢB	1	2～	演習	30					
		歴史学A	2	1～	講義	15					
		歴史学B	2	1～	講義	15					
		日本史概論	2	1～	講義	15					
		外国史概論	2	1～	講義	15					
		地理学A	2	1～	講義	15					
		地理学B	2	1～	講義	15					
		地理学概論(地誌を含む)	2	1～	講義	15					
		倫理学A	2	1～	講義	15					
		倫理学B	2	1～	講義	15					
		倫理学概論	2	1～	講義	15					
		哲学A	2	1～	講義	15					
		哲学B	2	1～	講義	15					
		哲学概論	2	1～	講義	15					
		文学A	2	1～	講義	15					
		文学B	2	1～	講義	15					
		論理学A	2	1～	講義	15					
		論理学B	2	1～	講義	15					
		国語表現法A	2	1～	講義	15					
		国語表現法B	2	1～	講義	15					
		美学A	2	1～	講義	15					
		美学B	2	1～	講義	15					
		比較文化論A	2	1～	講義	15					
		比較文化論B	2	1～	講義	15					
		文化人類学A	2	1～	講義	15					
		文化人類学B	2	1～	講義	15					
		社会学A	2	1～	講義	15					
		社会学B	2	1～	講義	15					

Ⅱ
スポーツ

科目区分		科目名	単位数	履修年次	授業方法	1単位時間数	卒業単位	卒業必修	中一種(保体)	高一種(保体)	中一種高一種(保体)
Ⅱ スポーツ	外国語・教養選択科目	法学A(国際法を含む)	2	1～	講義	15	(16単位)				
		法学B(国際法を含む)	2	1～	講義	15					
		統計学A	2	1～	講義	15					
		統計学B	2	1～	講義	15					
		心理学A	2	1～	講義	15					
		心理学B	2	1～	講義	15					
		社会心理学A	2	1～	講義	15					
		社会心理学B	2	1～	講義	15					
		政治学A(国際政治を含む)	2	1～	講義	15					
		政治学B(国際政治を含む)	2	1～	講義	15					
		情報社会科学A	2	1～	講義	15					
		情報社会科学B	2	1～	講義	15					
		環境科学A	2	1～	講義	15					
		環境科学B	2	1～	講義	15					
		代数学	2	1～	講義	15					
		解析学	2	1～	講義	15					
		数学概論A	2	1～	講義	15					
		数学概論B	2	1～	講義	15					
		物理学A	2	1～	講義	15					
		物理学B	2	1～	講義	15					
		化学A	2	1～	講義	15					
		化学B	2	1～	講義	15					
		生物学A	2	1～	講義	15					
		生物学B	2	1～	講義	15					
		科学史A	2	1～	講義	15					
		科学史B	2	1～	講義	15					
		日本国憲法	2	1～	講義	15			必	必	必
		健康と運動の科学	2	1～	講義	15					
		情報処理	2	1～	演習	15			必	必	必
		マナーの基本	2	1～	講義	15					
		キャリアデザイン	2	1～	講義	15					
		コミュニケーション能力を磨こう	2	1～	講義	15					
		データサイエンス基礎	2	1～	講義	15					
		教養特講(講義)	2	1～	講義	15					
		教養特講(演習)	1	1～	演習	30					

・「必・選・選必」は希望する免許・資格取得と卒業に対する印

科 目 区 分		科 目 名		単位数	履修 年次	授業 方法	1単位 時間数	卒 業 所 位 要 単 位	卒業 必修	中一種 (保体)	高一種 (保体)	中一種 高一種 (保体)	
Ⅱ 群	外国語・教養 選択科目	海外留学		1～20	2～	講義	15	(単位認定)					
						演習	30	(単位認定)					
Ⅲ群	専攻必修科目	フレッシュマンセミナー		1	1	演習	30	1単位	必	必	必	必	
Ⅳ 群	専 門 選 択 科 目	基 礎 実 技	体づくり運動	1	2～	演習	30	74単位		必	必	必	
			器械運動	1	1～	演習	30			必	必	必	
			陸上運動	1	1～	演習	30			必	必	必	
			水泳	1	1～	演習	30			必	必	必	
			ダンス	1	1～	演習	30			必	必	必	
			柔道	1	2～	演習	30			選必	選必	選必	
			剣道	1	2～	演習	30			選必	選必	選必	
			野球（ソフトボール）	1	2～	演習	30			必	必	必	
			テニス	1	1～	演習	30			選必	選必	選必	
			バレーボール	1	2～	演習	30			選必	選必	選必	
			バスケットボール	1	1～	演習	30			選必	選必	選必	
			ラグビー	1	2～	演習	30			選必	選必	選必	
			サッカー	1	1～	演習	30			選必	選必	選必	
			身体運動演習（器械運動）	1	1～	演習	30			選必	選必	選必	
			身体運動演習（陸上運動）	1	1～	演習	30			選必	選必	選必	
		身体運動演習（表現運動）	1	1～	演習	30			選必	選必	選必		
		基 礎 理 論	体育原理	2	1～	講義	15			選必	選必	選必	
			体育心理学	2	2～	講義	15			選必	選必	選必	
			体育・スポーツ経営学	2	2～	講義	15			選必	選必	選必	
			スポーツ社会学	2	2～	講義	15			選必	選必	選必	
			運動学Ⅰ（運動方法学を含む）	2	1～	講義	15			必	必	必	
			運動学Ⅱ	2	1～	講義	15			選必	選必	選必	
			スポーツコーチング総論	2	2～	講義	15			選必	選必	選必	
			生理学	2	1～	講義	15			必	必	必	
			運動生理学	2	2～	講義	15			必	必	必	
			衛生・公衆衛生学	2	1～	講義	15			必	必	必	
			学校保健Ⅰ（小児保健を含む）	2	1～	講義	15			必	必	必	
			学校保健Ⅱ（学校安全及び救急処置を含む）	2	1～	講義	15			必	必	必	
		精神保健学	2	1～	講義	15			必	必	必		
		教科関連科目	専攻専門	スポーツ科学入門	2	1～	講義		15				
				解剖学（基礎）	2	1～	講義		15				
競技スポーツ理論	2			1～	講義	15							
発育発達学	2			2～	講義	15							

・「必・選・選必」は希望する免許・資格取得と卒業に対する印

Ⅱ
スポーツ

科 目 区 分				科 目 名	単位数	履修 年次	授業 方法	1単位 時間数	卒 業 所 位 要 単 位	卒業 必修	中一種 (保体)	高一種 (保体)	中一種 高一種 (保体)
Ⅳ 群	専 門 選 択 科 目	教 科 関 連 科 目	専 攻 専 門	トレーニング論Ⅰ	2	2～	講義	15	(74単位)				
				トレーニング論Ⅱ	2	3～	講義	15					
				スポーツ指導者論Ⅰ	2	2～	講義	15					
				スポーツ指導者論Ⅱ	2	3～	講義	15					
				スポーツ生理学	2	2～	講義	15			選	選	選
				スポーツ医学概論	2	2～	講義	15					
				スポーツ産業論	2	3～	講義	15					
				スポーツ行政論	2	2～	講義	15					
				スポーツマーケティング	2	3～	講義	15					
				健康・スポーツの測定と評価	2	3～	講義	15					
				スポーツリハビリテーション論（テーピングを含む）	2	3～	講義	15					
				障害者スポーツ	2	3～	講義	15					
				運動と健康（運動処方論）	2	3～	講義	15					
				スポーツ栄養学	2	3～	講義	15					
				スポーツ指導のバイオメカニクス	2	3～	講義	15					
				トレーニング実習Ⅰ	1	2～	演習	30					
				トレーニング実習Ⅱ	1	3～	演習	30					
				ニュースポーツ	1	3～	演習	30					
				野外運動C（アドバンス）	1	1～	演習	30					
				スポーツ情報科学（入門）	2	2～	講義	15					
				スポーツ情報科学（分析）	2	2～	演習	15					
		実 践 研 究	体育・スポーツ実践事例研究	2	2～	講義	15						
			スポーツ科学実験演習	1	2～	演習	30						
			スポーツインターンシップⅠ	1	2～	演習	30						
			スポーツインターンシップⅡ	1	2～	演習	30						
			専門演習A1	1	3～	演習	30						
			専門演習A2	1	3～	演習	30						
			専門演習B1	1	3～	演習	30						
専門演習B2	1		3～	演習	30								
教 職 専 門 科 目	教育基礎論	2	1～	講義	15		◆必	◆必	◆必				
	教師論	2	1～	講義	15		必	必	必				
	教育制度論	2	2～	講義	15		必	必	必				
	教育心理学	2	1～	講義	15		◆必	◆必	◆必				
	特別支援教育	2	2～	講義	15		必	必	必				
	教育課程論	2	1～	講義	15		必	必	必				

・「必・選・選必」は希望する免許・資格取得と卒業に対する印
・◆…該当資格希望者のみ履修可能
・「スポーツインターンシップⅠ・Ⅱ」は、年間最高履修登録単位数に含まれない。また、履修方法等については、ガイダンスで説明する。

科 目 区 分			科 目 名	単位数	履修 年次	授業 方法	1単位 時間数	卒 業 所 位	卒業 必修	中一種 (保体)	高一種 (保体)	中一種 高一種 (保体)
Ⅳ 群	専 門 選 択 科 目	教 職 専 門 科 目	道徳教育の理論と方法	2	2～	講義	15	(74単位)		◆必	◆選	◆必
			総合的な学習の時間の理論と方法	2	3～	講義	15			◆必	◆必	◆必
			特別活動の理論と方法	2	2～	講義	15			◆必	◆必	◆必
			教育方法・技術論	2	1～	講義	15			◆必	◆必	◆必
			ICT 活用の理論と方法	2	2～	講義	15			◆必	◆必	◆必
			生徒・進路指導の理論と方法	2	2～	講義	15			◆必	◆必	◆必
			教育相談の理論と方法	2	2～	講義	15			◆必	◆必	◆必
			保健体育科教育法Ⅰ	2	2～	講義	15			必	必	必
			保健体育科教育法Ⅱ	2	2～	講義	15			必	必	必
			保健体育科教育法Ⅲ（保健）	2	3～	講義	15			必	必	必
			保健体育科教育法Ⅳ	2	3～	講義	15			必	必	必
			比較教育論	2	2～	講義	15			選	選	選
			人権教育	2	3～	講義	15			選	選	選
		学 科 共 通 科 目	福祉とボランティア	2	1～	講義	15					
			教育の倫理学	2	1～	講義	15					
			レクリエーション理論	2	2～	講義	15					
			レクリエーション実技	1	2～	演習	30					
			レクリエーション実習（◆レ）	1	3～	実習	30					
			野外運動A（キャンプ）	1	1～	演習	30					
			野外運動B（雪上）	1	1～	演習	30					
			救急法	2	1～	講義	15					
			Teaching English to Children	2	2～	講義	15					
			e－ラーニング	1	1～	演習	15					
			教育情報処理	2	1～	演習	15					
			社会人口学	2	1～	講義	15					
			家族社会学	2	1～	講義	15					
			TOEICⅠ	1	1～	演習	30					
			TOEICⅡ	1	2～	演習	30					
			TOEFLⅠ	1	1～	演習	30					
			TOEFLⅡ	1	2～	演習	30					
			Picture Books	2	1～	講義	15					
		特 講	専門特講（講義）	2	1～	講義	15					
			専門特講（演習）	1	1～	演習	30					
Ⅴ群	卒業研究	卒業研究	4	4	演習	30	4単位	必	必	必	必	
自由選択科目			・Ⅱ群の最低修得単位を超えた単位数 ・Ⅳ群の最低修得単位を超えた単位数 ・他学部・他専攻科目（指定科目）					25単位				
卒 業 所 要 単 位								124単位				

・「必・選・選必」は希望する免許・資格取得と卒業に対する印

・◆レ…レクリエーションインストラクターの登録者で、教育実習を履修していない者のみ登録可能

・◆…該当資格希望者のみ履修可能

科目区分	科目名	単位数	履修年次	授業方法	1単位時間数	卒業所要単位	中一種 (保体)	高一種 (保体)	中一種 高一種 (保体)
実習科目	教育実習の事前事後指導S	1	3～	講義	30	卒業単位に含まれない (注1)	◆必	◆必	◆必
	中等教育実習Ⅰ	4	3～	実習	30		◆必		◆必
	中等教育実習Ⅱ	2	3～	実習	30			◆必	
	中等教育実習Ⅲ	2	3～	実習	30		※許可された者のみ		
	教職実践演習(中・高)(注2)	2	4	演習	15		◆必	◆必	◆必

(注1) 教育実習の事前事後指導と該当の実習が完了しないと単位は付与されない。

(注2) 教育実習を修了していないと履修できない。

・「必・選・選必」は希望する免許・資格取得と卒業に対する印

・◆…該当資格希望者のみ履修可能

Ⅱ
スポーツ

3. スポーツ健康専攻 卒業・免許別所要単位数

卒業所要単位	124		
免許名	中一種免 (保健体育)	高一種免 (保健体育)	中一種免・高一種免 (保健体育)
実習科目(注3)	7	5	7
合計単位	131	129	131

(注3) 希望する免許に開設された実習科目の履修を必要とするが、卒業所要単位には含まれない。

Ⅲ 英語教育専攻

1. 英語教育専攻

○教育目的

グローバル化が進む今日の社会において、国際的な視野を持つ人材、そして英語を始めとして外国語能力の高い人材がますます求められている。英語教育専攻においては、小学校、中学校、高等学校の英語教育に関わる教員として優れた人材、および、国際的な視野と高い英語能力を生かして実社会において活躍できるような人材の育成を目指す。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針について）

英語教育専攻では、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、体系的に学修できるようカリキュラムを編成しています。

1 に関しては、学生がめざす卒業後の進路に応じて、歴史・社会・人間・自然・第二外国語などの分野から専門選択科目として74単位を履修していきます。各授業においては、まとまった学究的な文献や講義を理解し、適切な言葉でまとめたり発表できる国語力を育むため、レポートやプレゼンテーションなどの機会を多く設けています。

2 については、英語の実践的運用能力を高めるため、英語の4技能を総合的に伸ばす1年次の「English Study Skills」や4技能をホリスティックに通年で学ぶ「Communication Skills」などの必修科目に加え、様々な英語関連科目を提供しています。また、1年次で年に2回、2年次から4年次までは年1回 TOEFL を受験し、英語力の客観的資料としています。

3 については、日本語による「情報処理」のコースだけでなく、英語で行う「Computing Essentials」を提供します。また、1年次の「フレッシュマンセミナー」では、資料の収集法、報告書や論文の書き方、レジュメのまとめ方、発表の方法を学び、各自の興味関心のあるテーマから調査・研究に深めていく手続きを身につけます。この土台は3年次以降のゼミに続くものであり、3年次の「課題研究」で批判的思考を育み、4年次の必修科目「卒業研究」では、大学での学習の集大成として「卒業論文」や「研究ノート」、「研究プロジェクト」を執筆します。

4 については、本学の理念である「さらに向こうへ」を目指すため、学業の中で「必死に何かに取り組む」「やり抜く」「失敗や挫折から這い上がる」経験を通して、社会で生きていく力や自信を獲得します。教職希望の人には、小中学校での1日観察実習や教育実習に加え、それらの準備としてのスクールサポート、その他の職業に進む学生には、インターンシップや留学、海外研修、地域ボランティアなど実社会で役立つための活動を推奨しています。これらを通し、企画力、チームワーク、問題解決能力だけでなく、活動を通して出会う人々との交流から異世代間・異文化間のコミュニケーション能力も向上させます。

5 に関しては、交換留学制度を利用した留学を奨励するため、海外留学で得た単位を専門選択科目に認定するとともに、随意科目としてインテンシブな語学研修プログラムや短期の海外体験

プログラムを提供します。また、「異文化間コミュニケーション論」「異文化理解」等の科目を留学生にも開放し、自文化や異文化への気づきを促し、文化背景の異なる他者と協働してプロジェクトを遂行したり、コミュニケーションをとる過程の中で、体験的な気づきや海外留学への動機を強めることを目指します。さらに、「Speech Festival」など、留学生とともに学び活動する場を拡大し、かれらとの交流を通して、異文化理解力を備えた国際人を育成します。

○ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針について）

英語教育専攻では、一般教養、英語力、専門としての教育及び英語教育における知識と理解を有し、社会に貢献する意欲と国際人としての資質を備えた人材を育成し、所定の課程を通じて以下の力を身につけたと認められた学生に学位を授与します。

1. 一般教養や日本語力はもちろんのこと、教育や英語教育に関する専門知識を有し、自ら進んで学び続けることができる。
2. 英語の実践的な運用能力を備え、英語による情報を理解し発信することができる。
3. 広い視野をもって課題を発見し、資料収集やリサーチを行うことができる。
4. 確固たる職業意識を持ち、自立した人間として社会に貢献していくため、他者とのコミュニケーションを通して協働できる。
5. グローバル時代における国際人として、自国の文化とともに異文化を理解できる。

— 各 科 目 の 履 修 方 法 に つ い て —

教育学部の授業科目は、卒業に必要なⅠ群～Ⅴ群および免許・資格取得に必要な実習等科目によって科目区分されている。Ⅰ群～Ⅴ群ごとに卒業に必要な単位数が決められている。

これに従って単位を修得しなければ、卒業要件を満たすことはできない。「Ⅰ教育課程－8. 卒業要件」(参照)

ここでは、卒業科目とその単位や履修年次および卒業するために必要な単位数などを表で示している。どれも基本的かつ重要な事項のため、必ず熟読すること。

◆英語教育専攻 卒業所要単位

科 目 群 名	卒業所要単位
I 群 外国語必修科目	4 単位
II 群 外国語・教養選択科目	16 単位
III 群 専攻必修科目	1 単位
IV 群 専門選択科目	74 単位
V 群 卒業研究	4 単位
自 由 選 択	25 単位
合 計	124 単位
実 習 科 目	(注1)
随 意 科 目	(注2)

(注1) 当該免許に開設された科目の履修を必要とするが、卒業所要単位に含まれない。

(注2) 卒業所要単位に含まれない。

(1) I 群：外国語必修科目

I 群：外国語必修科目……計2科目4単位が必修。

III
英語教育

(2) II 群：外国語・教養選択科目

II 群の外国語・教養科目は全て選択科目となり、16単位以上修得すること。

教養特講について

教養特講は、教養科目の現行のカリキュラムにはないが、緊急に開講する必要があると思われる内容について講義する授業科目である。原則として単年度で開講され、() の内容が異なる場合には、複数履修することができる。

(3) III 群：専攻必修科目

III 群：専攻必修科目……………1科目1単位必修。

「フレッシュマンセミナー」は文献資料の収集・整理・分析等の方法を学び、情報技術を体得し、教員や他の学生と討論する科目である。具体的には①大学の学習システムを理解すること。②「学ぶこと」の意味と方法を探ること。③キャンパスライフを豊かに送るために必要な情報を収集すること。④「読む」「書く」「発表する」など基本的能力を身につけることを目的とする。

(4) IV群：専門選択科目

3年次配当科目では、教員になる上で求められる教養や作文力を鍛える場として、「課題研究」（通年4単位）が選択科目として設けられている。本専攻においては、「課題研究」は「卒業研究」の前提科目ではないが、履修した課題研究の担当教員のもとで「卒業研究」を行う場合は、卒業論文を作成することができる。

「海外留学」の単位認定について

英語圏または派遣留学先の大学（コミュニティカレッジを含む）のESLコース等に留学して単位を取得した場合は、総授業時間に応じて「海外留学」として32単位を上限とする単位を認定する。この場合の成績評価はNとし、単位認定は留学先が発行した未開封の成績証明書、授業日程・回数・時間数等が明記された資料を提出の上、本専攻の演習科目の認定基準に基づいて行う。

また、留学先で取得した単位のうち、本学に同様の内容の未履修科目がある場合には、学生の申請により、本学の履修規程に定める科目区分（講義または演習）に従って、本学の授業科目の単位に振り替えることができる（「海外留学」と同様に、成績資料等の提出が必要。成績評価はN）。

「海外留学」で認定する場合、または本学の授業科目の単位に振替えて認定する場合のどちらにおいても、認定される単位数は年間最高履修登録単位数には含まれない。

なお、留学先で得たいかなる単位も、教員免許の取得に関わる科目（詳細は「教員免許状および資格取得の手引き」を参照）への振り替えは行わないので注意すること。

専門特講について

専門特講は、現行のカリキュラムにはないが緊急に開講する必要があると思われる内容について講義する授業科目である。原則として単年度で開講され、（ ）の内容が異なる場合には、複数履修することができる。

(5) V群：卒業研究

英語教育専攻においては、「卒業研究」（通年4単位）が4年次の必修科目として配当されている。本科目においては、3年次までに培った英語での情報取得能力や英語への学的関心に応じて、担当教員の指導のもと研究ノート、研究プロジェクト、または卒業論文を作成する。研究ノートは文献のまとめを主としたものを指す。研究プロジェクトの内容としては、新たな教材や指導法の開発、ディベートや教育ボランティアの活動報告など、多岐の学的活動が含まれる。どのような研究プロジェクトの指導が受けられるかは担当教員によって異なるので、必ず事前に相談すること。なお、英語での執筆を希望する学生は、「Academic Writing」を履修していることが前提条件となる。ある一定以上のTOEFLのスコアが必要になることもあるので、担当教員に問い合わせること。

卒業論文と、研究ノート、研究プロジェクトの違いによって単位数は変わらないが、長さや内容に違いがある研究ノートと研究プロジェクトの場合は「B」が標準の評価となる。

なお、「卒業研究」は通年で履修することを原則とするが、海外留学等、特別の事情が認められた場合に限り、「卒業研究（半期4単位）」を履修することができる。

(6) 自由選択

卒業所要単位にあるように、卒業する為にはⅠ群～Ⅴ群における科目群に必要な卒業所要単位数を修得しなければならない。各必要単位を合計すると99単位となる。卒業の要件の単位は124単位のため、残り25単位を自由選択単位として修得しなければならない。この25単位には、①Ⅰ群～Ⅴ群の卒業所要単位数を超えて修得した単位および、②他大学・他学部・他専攻履修（一部の科目）で修得した単位を充てることができる。

①②のうち何を選択履修するかは自由であるが、まず所属専攻において何について勉強・研究したいのか、関心を深めたい分野は何であるのかをしっかりと見極めて、与えられた「自由」を十分に生かした4年間の学業プランを練るよう心がけること。

他学部・他専攻履修

履修可能な開講科目は『時間割』・『履修登録の手引き』で確認すること。

履修は開講先の所属学生が優先となるため、開講科目によっては履修条件や人数制限、事前登録が必要となる場合がある。

授業や試験に関する連絡事項等は、開講先の学部・学科（専攻）の掲示板を確認すること。

なお、教育学部の自由選択科目としての他学部等履修科目については、25単位を限度として、卒業所要単位として認定される。

(7) 実習科目

教育職員免許状取得に必要な科目で、課程登録をしている免許に該当する科目を修得しなければならない。この科目は卒業所要単位として算入されず、年間最高履修登録単位数には含まれない科目である。

(8) 他大学等の科目単位の認定、交換留学制度

他大学履修

他大学等で修得した科目の単位について、教育上有益と認められる場合には、教授会審議の上、本学の科目単位として学長が認める場合がある。申請については、『履修登録の手引き』を確認すること。

交換留学制度

交換留学先の大学や募集要項については、国際交流サポートセンターへ問合せること。

募集要項は白鷗大学ホームページに掲載するので、希望者は所定期間内に志願し、手続きすること。

(9) 随意科目

卒業所要単位として算入されず、年間最高履修登録単位数に含まれない科目である。

科目が指定され、科目によっては履修対象者が限定されることがある。また、履修制限をすることがあるため、ポータル等に注意すること。

単位互換制度

大学コンソーシアムとちぎ（栃木県内大学）、放送大学（互換対象科目指定）と単位互換協定を結んでいる。該当科目は随意科目となる。

大学コンソーシアムとちぎの詳細については、大学コンソーシアムとちぎホームページで確認すること。

(10) 再履修について

2年次以降に係わる履修

再履修とは 履修の結果「不合格」「失格」となった科目を再度履修すること。
必修科目は必ず履修しなければならないが、選択科目は別の科目を履修してもよい。

再履修方法 上級年次の学生は、下級年次配当の授業科目を履修できる。
各科目の再履修方法の概要は次のとおりである。
※未修得の学生も再履修者と同様の手続きが必要になる場合がある。
※クラスを指定している授業科目もあるので、ポータルや『時間割』・『履修登録の手引き』で確認すること。

I 群：外国語必修科目 1クラスの人数に制限があるため、教務課の指示に従うこと。

II 群：外国語・教養選択科目 開講科目の中から、必要単位分以上を修得する。別科目を選択してもよい。

III 群：専攻必修科目 再履修者の人数に応じて、再履修クラスを開講する場合がある。
特別に指示がない場合には、「時間割」に従って履修する。

IV 群：専門選択科目・V 群：卒業研究

- ・特別に指示がない場合には、「時間割」に従って履修する。
- ・課題研究や卒業研究の科目は、事前に選考を受けなければならない。

上記以外の科目 実習科目…再履修は原則認めない。

2. カリキュラム表（教育学部 発達科学科 英語教育専攻）

科目区分		科目名	単位数	履修年次	授業方法	1単位時間数	卒業所要単位	卒業必修	中一種(英語)	高一種(英語)	中一種高一種(英語)
Ⅰ群	外国語必修科目	English Study Skills	2	1	演習	30	4単位	必	必	必	必
		Communication Skills	2	1	演習	30		必	必	必	必
Ⅱ群	外国語・教養選択科目	基礎英語A	1	1～	演習	30	16単位				
		基礎英語B	1	1～	演習	30					
		ReadingⅠA	1	1～	演習	30					
		ReadingⅠB	1	1～	演習	30					
		ReadingⅡA	1	2～	演習	30					
		ReadingⅡB	1	2～	演習	30					
		WritingⅠA	1	1～	演習	30					
		WritingⅠB	1	1～	演習	30					
		WritingⅡA	1	2～	演習	30					
		WritingⅡB	1	2～	演習	30					
		Vocabulary A	1	1～	演習	30					
		Vocabulary B	1	1～	演習	30					
		ドイツ語ⅠA	2	1～	演習	30					
		ドイツ語ⅠB	2	1～	演習	30					
		ドイツ語ⅡA	1	2～	演習	30					
		ドイツ語ⅡB	1	2～	演習	30					
		ドイツ語ⅢA	1	2～	演習	30					
		ドイツ語ⅢB	1	2～	演習	30					
		フランス語ⅠA	2	1～	演習	30					
		フランス語ⅠB	2	1～	演習	30					
		フランス語ⅡA	1	2～	演習	30					
		フランス語ⅡB	1	2～	演習	30					
		フランス語ⅢA	1	2～	演習	30					
		フランス語ⅢB	1	2～	演習	30					
		スペイン語ⅠA	2	1～	演習	30					
		スペイン語ⅠB	2	1～	演習	30					
		スペイン語ⅡA	1	2～	演習	30					
		スペイン語ⅡB	1	2～	演習	30					
		スペイン語ⅢA	1	2～	演習	30					
		スペイン語ⅢB	1	2～	演習	30					
		中国語ⅠA	2	1～	演習	30					
		中国語ⅠB	2	1～	演習	30					
		中国語ⅡA	1	2～	演習	30					
		中国語ⅡB	1	2～	演習	30					

・「必・選・選必」は希望する免許・資格取得と卒業に対する印

科目区分		科目名	単位数	履修年次	授業方法	1単位時間数	卒業所要単位	卒業必修	中一種(英語)	高一種(英語)	中一種高一種(英語)
Ⅱ群	外国語・教養選択科目	中国語ⅢA	1	2～	演習	30	(16単位)				
		中国語ⅢB	1	2～	演習	30					
		韓国語ⅠA	2	1～	演習	30					
		韓国語ⅠB	2	1～	演習	30					
		韓国語ⅡA	1	2～	演習	30					
		韓国語ⅡB	1	2～	演習	30					
		韓国語ⅢA	1	2～	演習	30					
		韓国語ⅢB	1	2～	演習	30					
		歴史学A	2	1～	講義	15					
		歴史学B	2	1～	講義	15					
		日本史概論	2	1～	講義	15					
		外国史概論	2	1～	講義	15					
		地理学A	2	1～	講義	15					
		地理学B	2	1～	講義	15					
		地理学概論(地誌を含む)	2	1～	講義	15					
		倫理学A	2	1～	講義	15					
		倫理学B	2	1～	講義	15					
		倫理学概論	2	1～	講義	15					
		哲学A	2	1～	講義	15					
		哲学B	2	1～	講義	15					
		哲学概論	2	1～	講義	15					
		文学A	2	1～	講義	15					
		文学B	2	1～	講義	15					
		論理学A	2	1～	講義	15					
		論理学B	2	1～	講義	15					
		国語表現法A	2	1～	講義	15					
		国語表現法B	2	1～	講義	15					
		美学A	2	1～	講義	15					
		美学B	2	1～	講義	15					
		比較文化論A	2	1～	講義	15					
		比較文化論B	2	1～	講義	15					
		文化人類学A	2	1～	講義	15					
		文化人類学B	2	1～	講義	15					
		社会学A	2	1～	講義	15					
		社会学B	2	1～	講義	15					

科目区分		科目名	単位数	履修年次	授業方法	1単位時間数	卒業所要単位	卒業必修	中一種(英語)	高一種(英語)	中一種高一種(英語)
Ⅱ群	外国語・教養選択科目	法学A（国際法を含む）	2	1～	講義	15	(16単位)				
		法学B（国際法を含む）	2	1～	講義	15					
		統計学A	2	1～	講義	15					
		統計学B	2	1～	講義	15					
		心理学A	2	1～	講義	15					
		心理学B	2	1～	講義	15					
		社会心理学A	2	1～	講義	15					
		社会心理学B	2	1～	講義	15					
		政治学A（国際政治を含む）	2	1～	講義	15					
		政治学B（国際政治を含む）	2	1～	講義	15					
		情報社会科学A	2	1～	講義	15					
		情報社会科学B	2	1～	講義	15					
		環境科学A	2	1～	講義	15					
		環境科学B	2	1～	講義	15					
		代数学	2	1～	講義	15					
		解析学	2	1～	講義	15					
		数学概論A	2	1～	講義	15					
		数学概論B	2	1～	講義	15					
		物理学A	2	1～	講義	15					
		物理学B	2	1～	講義	15					
		化学A	2	1～	講義	15					
		化学B	2	1～	講義	15					
		生物学A	2	1～	講義	15					
		生物学B	2	1～	講義	15					
		科学史A	2	1～	講義	15					
		科学史B	2	1～	講義	15					
		日本国憲法	2	1～	講義	15			必	必	必
		健康と運動の科学	2	1～	講義	15					
		体育実技A	1	1～	実技	30			必	必	必
		体育実技B	1	1～	実技	30			必	必	必
		情報処理	2	1～	演習	15			必	必	必
		マナーの基本	2	1～	講義	15					
		キャリアデザイン	2	1～	講義	15					
		コミュニケーション能力を磨こう	2	1～	講義	15					
		データサイエンス基礎	2	1～	講義	15					
		教養特講（講義）	2	1～	講義	15					

・「必・選・選必」は希望する免許・資格取得と卒業に対する印

科目区分			科目名		単位数	履修年次	授業方法	1単位時間数	卒業所要単位	卒業必修	中一種(英語)	高一種(英語)	中一種高一種(英語)
Ⅱ群	外国語・教養選択科目		教養特講（演習）		1	1～	演習	30	(16単位)				
Ⅲ群	専攻必修科目		フレッシュマンセミナー		1	1	演習	30	1単位	必	必	必	必
Ⅳ群	専門選択科目	教科専門科目	Speaking & Listening A		2	2～	演習	15	74単位		選	選	選
			Speaking & Listening B		2	2～	演習	15			選	選	選
			Speaking & Listening C		2	3～	演習	15					
			Reading & Vocabulary A		2	1～	演習	15			選	選	選
			Reading & Vocabulary B		2	2～	演習	15			選	選	選
			Reading & Vocabulary C		2	2～	演習	15					
			Basic Writing		2	1～	演習	15			選	選	選
			Intermediate Writing		2	1～	演習	15			選	選	選
			Advanced Writing		2	2～	演習	15					
			Academic Writing		2	3～	演習	15					
			英文法A		2	1～	演習	15			選	選	選
			英文法B		2	2～	講義	15			選	選	選
			英文法C		2	2～	講義	15					
			英語学概論		2	1～	講義	15			必	必	必
			発音トレーニング		2	1～	演習	15			選	選	選
			音声学		2	1～	講義	15			選	選	選
			英語文学概論		2	1～	講義	15			必	必	必
			英語文学A		2	2～	演習	15			選	選	選
			英語文学B		2	2～	演習	15			選	選	選
			英語文学C		2	3～	演習	15			選	選	選
			英語文学D		2	3～	講義	15					
			異文化理解		2	1～	講義	15			必	必	必
			異文化間コミュニケーション論		2	2～	講義	15			選	選	選
			英語圏地域研究		2	2～	講義	15					
			Remedial English		2	1～	演習	15					
			Discussion & Debate		2	3～	講義	15					
			Academic Lecture		2	2～	講義	15					
			Computing Essentials		2	1～	講義	15					
			Media Project A		2	2～	講義	15					
			Media Project B		2	2～	講義	15					
			Social Networking		2	2～	講義	15					
			英語教育評価論		2	3～	講義	15			選	選	選
			英語教授法特論A		2	3～	講義	15			選	選	選
			英語教授法特論B		2	3～	講義	15			選	選	選

・「必・選・選必」は希望する免許・資格取得と卒業に対する印

科目区分			科目名	単位数	履修年次	授業方法	1単位時間数	卒業所要単位	卒業必修	中一種(英語)	高一種(英語)	中一種高一種(英語)
IV 群	専門選択科目	教科専門科目	Volunteering & Management	2	2～	講義	15	(74単位)				
			ソフォモアセミナー	2	2～	講義	15					
			第二言語習得論	2	2～	講義	15			選	選	選
		教職専門科目	教育基礎論	2	1～	講義	15			◆必	◆必	◆必
			教師論	2	1～	講義	15			必	必	必
			教育制度論	2	2～	講義	15			必	必	必
			教育心理学	2	1～	講義	15			◆必	◆必	◆必
			特別支援教育	2	2～	講義	15			必	必	必
			教育課程論	2	1～	講義	15			必	必	必
			道徳教育の理論と方法	2	2～	講義	15			◆必	◆選	◆必
			総合的な学習の時間の理論と方法	2	3～	講義	15			◆必	◆必	◆必
			特別活動の理論と方法	2	2～	講義	15			◆必	◆必	◆必
			教育方法・技術論	2	1～	講義	15			◆必	◆必	◆必
			ICT 活用の理論と方法	2	2～	講義	15			◆必	◆必	◆必
			生徒・進路指導の理論と方法	2	2～	講義	15			◆必	◆必	◆必
			教育相談の理論と方法	2	2～	講義	15			◆必	◆必	◆必
			英語科教育法Ⅰ	2	1～	講義	15			必	必	必
			英語科教育法Ⅱ	2	2～	講義	15			必	必	必
			英語科教育法Ⅲ	2	2～	講義	15			必	必	必
			英語科教育法Ⅳ	2	2～	講義	15			必	必	必
			比較教育論	2	2～	講義	15			選	選	選
			人権教育	2	3～	講義	15			選	選	選
		英語教育関連科目	英語科教材論	2	2～	講義	15			選	選	選
			小学校英語教育	2	2～	講義	15					
			英語コミュニケーション教育特講	2	1～	講義	15					
			英語で話す日本文化	2	2～	講義	15					
			課題研究	4	3～	演習	30					
		海外留学	海外留学	1～32	1～	講義	15	(単位認定)				
						演習	30	(単位認定)				
		ビジネス英語関連科目	国際ビジネス英語Ⅰ	2	1～	講義	15					
			国際ビジネス英語Ⅱ	2	1～	講義	15					
			時事英語Ⅰ	2	1～	講義	15					
			時事英語Ⅱ	2	1～	講義	15					
			ビジネス実務	2	1～	講義	15					

- ・「必・選・選必」は希望する免許・資格取得と卒業に対する印
 ・◆…該当資格希望者のみ履修可能
 ・「海外留学」の認定単位数は、年間最高履修登録単位数には含まれない。

科 目 区 分			科 目 名	単位数	履修 年次	授業 方法	1単位 時間数	卒業所要単位	卒業 必修	中一種 (英語)	高一種 (英語)	中一種 高一種 (英語)
Ⅳ群	専 門 選 択 科 目	ビジネス 英語関連 科 目	貿易商務論Ⅰ	2	1～	講義	15	(74単位)				
			貿易商務論Ⅱ	2	1～	講義	15					
		学 科 共 通 科 目	福祉とボランティア	2	1～	講義	15					
			教育の倫理学	2	1～	講義	15					
			レクリエーション理論	2	2～	講義	15					
			レクリエーション実技	1	2～	演習	30					
			レクリエーション実習(◆レ)	1	3～	実習	30					
			野外運動A(キャンプ)	1	1～	演習	30					
			野外運動B(雪上)	1	1～	演習	30					
			救急法	2	1～	講義	15					
			Teaching English to Children	2	2～	講義	15					
			e－ラーニング	1	1～	演習	30					
			教育情報処理	2	1～	演習	15					
			社会人口学	2	1～	講義	15					
			家族社会学	2	1～	講義	15					
			TOEICⅠ	1	1～	演習	30					
			TOEICⅡ	1	2～	演習	30					
			TOEFLⅠ	1	1～	演習	30					
			TOEFLⅡ	1	2～	演習	30					
			Picture Books	2	1～	講義	15					
		特 講	専門特講(講義)	2	1～	講義	15					
			専門特講(演習)	1	1～	演習	30					
V群	卒業研究	卒業研究	4	4	演習	30	4単位	必	必	必	必	
自由選択科目			・Ⅱ群の最低修得単位を超えた単位数 ・Ⅳ群の最低修得単位を超えた単位数 ・他学部・他専攻科目(指定科目)					25単位				
卒 業 所 要 単 位								124単位				

・「必・選・選必」は希望する免許・資格取得と卒業に対する印
・◆レ…レクリエーション・インストラクターの登録者で、教育実習を履修していない者のみ履修可能

科目区分	科目名	単位数	履修年次	授業方法	1単位時間数	卒業所要単位	中一種 (英語)	高一種 (英語)	中一種 高一種 (英語)
実習科目	教育実習の事前事後指導S	1	3～	講義	30	卒業単位に含まれない (注1)	◆必	◆必	◆必
	中等教育実習Ⅰ	4	3～	実習	30		◆必		◆必
	中等教育実習Ⅱ	2	3～	実習	30			◆必	
	中等教育実習Ⅲ	2	3～	実習	30		※許可された者のみ		
	教職実践演習(中・高)(注2)	2	4	演習	15		◆必	◆必	◆必

(注1) 教育実習の事前事後指導と該当の実習が完了しないと単位は付与されない。

(注2) 教育実習を修了していないと履修できない。

・「必・選・選必」は希望する免許・資格取得と卒業に対する印

・◆…該当資格希望者のみ履修可能

3. 英語教育専攻 卒業・免許別所要単位数

卒業所要単位	124		
免許名	中一種免 (英 語)	高一種免 (英 語)	中一種免・高一種免 (英 語)
実習科目(注3)	7	5	7
合計単位	131	129	131

(注3) 希望する免許に開設された実習科目の履修を必要とするが、卒業所要単位には含まれない。

IV 心理学専攻

1. 心理学専攻

○教育目的

本専攻の目的は、心理学の基本的な知識と研究法を学修すると同時に、科学的研究にふさわしい態度や思考能力、倫理観を養うことのできる教育を行うことにある。さらに、より専門的な心理学研究や実践につながりうる基礎を身につけ、自己に対する洞察と他者に対して共感することができる人間として、広範な職業領域および地域社会において、心理学の専門性を活かした貢献のできる人材を育成することを目指す。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針について）

心理学専攻では、ディプロマ・ポリシーに定める知識・能力・態度を体系的に学修できるようにカリキュラムを編成しています。同時に、公益社団法人日本心理学会の認定心理士認定基準及び国家資格である公認心理師の学部教育の方針に沿った構成となっています。さらに、心身の発達に関する知識を深めると同時に現代社会に関する教養を活かし、中学校教諭一種（社会）と高等学校教諭一種（公民）の教職課程を履修することも可能であり、心理学の専門性を活かしながら社会の幅広い分野で活躍できる人材を育成する教育を実施しています。

1. 学士にふさわしい教養と専門知識を獲得する基礎を築く初年次の教育において、幅広い教養科目と語学、大学教育への導入科目である「フレッシュマンセミナー」や将来と自身の結びつきを深める「キャリア心理学」、心理学の基本的な知識を学ぶ「心理学概論」や「心理学研究法」を用意している。心理学や教育に関する専門知識は2年次以降、段階的に専門性が高まるように科目を配置している。心理学の領域をバランスよく学修すると同時に、学生自身の興味に応じて多彩な知識を獲得できる構成となっている。
2. 科学的研究にふさわしい態度や批判的思考力、倫理観に裏付けられた技能（ICT、実験、調査、観察、面接等の実践）を学修するために、1年次は「情報処理」、「教育情報処理」、「フレッシュマンセミナー」等を通して情報の吟味、データの処理の実践について学ぶ。2年次には心理学の基礎的な研究技能を修得する「心理学実験」を履修する。より専門的な技能は2年次の「心理統計法」や3年次の「ゼミナール」、「心理演習Ⅰ（心理面接）」、「心理演習Ⅱ（心理検査）」で履修できる。
3. 科学的な研究・実践を行うのに必要な基本・専門技術を習得ののち、主体的に問題意識を持ってデータを収集・分析し、結果を社会に発信できる能力の養成を目指し、小グループのゼミ形式で指導を受ける3年次の「ゼミナール」に続き、4年次の「卒業研究」では学生自身が選んだテーマについて指導教員の下で主体的に研究を行い、卒業論文を作成し、口頭での発表と抄録の提出が求められる。
4. 社会人として自らを律し、主体的に学ぶ態度といった汎用的な能力を獲得するために、1年次の「フレッシュマンセミナー」を通じて立てた大まかな4年間の学習予定と「キャリア心

理学」で深めた将来像を目標に、学問に真摯に取り組む姿勢が期待される。3年次の「ゼミナール」に続き、4年次の「卒業研究」では学生自身が選んだテーマについて指導教員の下で主体的に研究を行い、卒業論文を作成し、口頭での発表と抄録の提出が求められる。また、教職課程を主体的に履修する学生は、教育実習やスクールサポートの体験を通して、社会との接点を持ちながら実践的に知見を修得することが期待される。

○ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針について）

心理学専攻では、心理学の専門性を活かしながら社会の幅広い分野で活躍できる人材を育成し、所定の課程を通じて以下の知識・能力・態度を身につけたと認められる学生に学位「学士（発達科学）」を授与します。

1. 幅広い教養と心理学や教育に関する専門知識
2. 科学的研究や実践にふさわしい態度や批判的思考力、倫理観に裏付けられた基本的な専門技能
3. 社会的事象について、主体的に課題を発見し、研究を計画遂行完成させる発想力、運営力、論理的な文章作成力と発表ができる能力
4. 科学的に物事を捉え、倫理的な判断に基づき自らを律し、主体的に課題に取り組む態度

—— 各 科 目 の 履 修 方 法 に つ い て ——

教育学部の授業科目は、卒業に必要なⅠ群～Ⅴ群および免許・資格取得に必要な実習等科目によって科目区分されている。Ⅰ群～Ⅴ群ごとに卒業に必要な単位数が決められている。これに従って単位を修得しなければ、卒業要件を満たすことはできない。

「Ⅰ 教育課程－8. 卒業要件」(参照)

ここでは、卒業科目とその単位や履修年次および卒業するために必要な単位数などを表で示している。どれも基本的かつ重要な事項のため、必ず熟読すること。

◆心理学専攻 卒業所要単位

科目群名		卒業所要単位
I 群	外国語必修科目	4単位
II 群	外国語・教養選択科目	16単位
III 群	専攻必修科目	1単位
IV 群	専門選択科目	74単位
V 群	卒業研究	4単位
自由選択		25単位
合計		124単位
実習科目		(注1)
公認心理師 実習・演習科目		(注1)
随意科目		(注2)

(注1) 当該免許・資格に開設された科目の履修を必要とするが、卒業所要単位に含まれない。

(注2) 卒業所要単位には含まれない。

(1) I 群：外国語必修科目

I 群：外国語必修科目……計2科目4単位が必修。

IV
心理学

(2) II 群：外国語・教養選択科目

II 群の外国語・教養科目は全て選択科目となり、16単位以上修得すること。

教養特講について

教養特講は、教養科目の現行のカリキュラムにはないが、緊急に開講する必要があると思われる内容について講義する授業科目である。原則として単年度で開講され、() の内容が異なる場合には、複数履修することができる。

(3) III 群：専攻必修科目

III 群：専攻必修科目……………1科目1単位必修。

「フレッシュマンセミナー」は文献資料の収集・整理・分析等の方法を学び、情報技術を体得し、教員や他の学生と討論する科目である。具体的には①大学の学習システムを理解すること。②「学ぶこと」の意味と方法を探ること。③キャンパスライフを豊かに送るために必要な情報を収集すること。④「読む」「書く」「発表する」など基本的能力を身につけることを目的とする。

(4) IV群：専門選択科目

- ・専門選択科目は、専攻専門科目、教科専門科目、教職専門科目、学科共通科目から成っている。これらの中から選択し、74単位以上履修すること。
- ・「ゼミナール」について
選択科目であるが、3年次で履修する必要がある。

この科目は、ゼミ形式による集団指導の形式によって行われる。指導教員との密接な人間関係を経験し、それぞれの教員の主たる研究分野の内容について指導を受け、仲間とともに研究を行うことは、後の卒業研究の際にも、卒業後の進路決定の際にもきわめて重要な経験となるであろう。

専門特講について

専門特講は、現行のカリキュラムにはないが緊急に開講する必要があると思われる内容について講義する授業科目である。原則として単年度で開講され、()の内容が異なる場合には、複数履修することができる。

(5) V群：卒業研究

「卒業研究」は、必修科目である。それぞれの教員の専門分野によって卒業研究の名に値するテーマを各自で決めて、担当教員の指導の下、卒業論文を作成することが同研究の中心課題となるが、他にも指導教員ごとに研究指導が行われる。評価は、卒業論文の内容について行うものとする。

なお、「卒業研究」は通年で履修することを原則とするが、海外留学等、特別の事情が認められた場合に限り、「卒業研究（半期4単位）」を履修することができる。

(6) 自由選択

卒業所要単位にあるように、卒業する為にはⅠ群～Ⅴ群における科目群に必要な卒業所要単位数を修得しなければならない。各必要単位を合計すると99単位となる。卒業の要件の単位は124単位のため、残り25単位を自由選択単位として修得しなければならない。この25単位には、①Ⅰ群～Ⅴ群の卒業所要単位数を超えて修得した単位および、②他大学・他学部・他専攻履修（一部の科目）で修得した単位を充てることができる。

①②のうち、何を選択履修するかは自由であるが、まず所属専攻において何について勉強・研究したいのか、関心を深めたい分野は何であるのかをしっかりと見極めて、与えられた「自由」を十分に生かした4年間の学業プランを練るよう心がけること。

他学部・他専攻履修

履修可能な開講科目は『時間割』・『履修登録の手引き』で確認すること。

履修は開講先の所属学生が優先となるため、開講科目によっては履修条件や人数制限、事前登録が必要となる場合がある。

授業や試験に関する連絡事項等は、開講先の学部・学科（専攻）の掲示板を確認すること。
なお、教育学部の自由選択科目としての他学部等履修科目については、25単位を限度として、卒業所要単位として認定される。

(7) 実習科目

教育職員免許状取得に必要な科目で、課程登録をしている免許に該当する科目を修得しなければならない。この科目は卒業所要単位として算入されず、年間最高履修登録単位数には含まれない科目である。

(8) 他大学等の科目単位の認定、交換留学制度

他大学履修

他大学等で修得した科目の単位について、教育上有益と認められる場合には、教授会審議の上、本学の科目単位として学長が認める場合がある。申請については、『履修登録の手引き』を確認すること。

交換留学制度

交換留学先の大学や募集要項については、国際交流サポートセンターへ問合せること。

募集要項は白鷗大学ホームページに掲載するので、希望者は所定期間内に志願し、手続きすること。

IV
心理学

(9) 随意科目

卒業所要単位として算入されず、年間最高履修登録単位数に含まれない科目である。
科目が指定され、科目によっては履修対象者が限定されることがある。また、履修制限をすることがあるため、ポータル等に注意すること。

単位互換制度

大学コンソーシアムとちぎ（栃木県内大学）、放送大学（互換対象科目指定）と単位互換協定を結んでいる。該当科目は随意科目となる。

大学コンソーシアムとちぎの詳細については、大学コンソーシアムとちぎホームページで確認すること。

(10) 再履修について

2年次以降に係わる履修

再履修とは 履修の結果「不合格」「失格」となった科目を再度履修すること。

必修科目は必ず履修しなければならないが、選択科目は別の科目を履修してもよい。

再履修方法 上級年次の学生は、下級年次配当の授業科目を履修できる。
各科目の再履修方法の概要は次のとおりである。

※未修得の学生も再履修者と同様の手続きが必要になる場合がある。

※クラスを指定する場合があるので、ポータルや『時間割』・『履修登録の手引き』でよく確認すること。

I 群：外国語必修科目 1クラスの人数に制限があるため、教務課の指示に従うこと。

II 群：外国語・教養選択科目 開講科目の中から、必要単位分以上を修得する。別科目を選択してもよい。

III 群：専攻必修科目 再履修者の人数に応じて、再履修クラスを開講する場合がある。
特別に指示がない場合には、「時間割」に従って履修する。

IV 群：専門選択科目・V 群：卒業研究

- ・特別に指示がない場合には、「時間割」に従って履修する。
- ・ゼミナールや卒業研究の科目は、事前に選考を受けなければならない。

上記以外の科目 実習科目…再履修は原則認めない。

2. カリキュラム表（教育学部 発達科学科 心理学専攻）

科目区分		科目名	単位数	履修年次	授業方法	1単位時間数	卒業所要単位	卒業必修	中一種(社会)	高一種(公民)	中一種(社会)高一種(公民)	認定心理士	公認心理師
Ⅰ群	外国語必修科目	英語コミュニケーションⅠA	1	1	演習	30	4単位	必	必	必	必	必	必
		英語コミュニケーションⅠB	1	1	演習	30		必	必	必	必	必	必
		英語コミュニケーションⅡA	1	2	演習	30		必	必	必	必	必	必
		英語コミュニケーションⅡB	1	2	演習	30		必	必	必	必	必	必
Ⅱ群	外国語・教養選択科目	基礎英語A	1	1～	演習	30	16単位						
		基礎英語B	1	1～	演習	30							
		ReadingⅠA	1	1～	演習	30							
		ReadingⅠB	1	1～	演習	30							
		ReadingⅡA	1	2～	演習	30							
		ReadingⅡB	1	2～	演習	30							
		WritingⅠA	1	1～	演習	30							
		WritingⅠB	1	1～	演習	30							
		WritingⅡA	1	2～	演習	30							
		WritingⅡB	1	2～	演習	30							
		Vocabulary A	1	1～	演習	30							
		Vocabulary B	1	1～	演習	30							
		ドイツ語ⅠA	2	1～	演習	30							
		ドイツ語ⅠB	2	1～	演習	30							
		ドイツ語ⅡA	1	2～	演習	30							
		ドイツ語ⅡB	1	2～	演習	30							
		ドイツ語ⅢA	1	2～	演習	30							
		ドイツ語ⅢB	1	2～	演習	30							
		フランス語ⅠA	2	1～	演習	30							
		フランス語ⅠB	2	1～	演習	30							
		フランス語ⅡA	1	2～	演習	30							
		フランス語ⅡB	1	2～	演習	30							
		フランス語ⅢA	1	2～	演習	30							
		フランス語ⅢB	1	2～	演習	30							
		スペイン語ⅠA	2	1～	演習	30							
		スペイン語ⅠB	2	1～	演習	30							
		スペイン語ⅡA	1	2～	演習	30							
		スペイン語ⅡB	1	2～	演習	30							
		スペイン語ⅢA	1	2～	演習	30							
		スペイン語ⅢB	1	2～	演習	30							
		中国語ⅠA	2	1～	演習	30							
		中国語ⅠB	2	1～	演習	30							

・「必・選・選必」は希望する免許・資格取得と卒業に対する印

IV
心理学

科目区分		科目名	単位数	履修年次	授業方法	1単位時間数	卒業所要単位	卒業必修	中一種(社会)	高一種(公民)	中一種(社会)高一種(公民)	認定心理士	公認心理師
Ⅱ群	外国語・教養選択科目	中国語ⅡA	1	2～	演習	30	(16単位)						
		中国語ⅡB	1	2～	演習	30							
		中国語ⅢA	1	2～	演習	30							
		中国語ⅢB	1	2～	演習	30							
		韓国語ⅠA	2	1～	演習	30							
		韓国語ⅠB	2	1～	演習	30							
		韓国語ⅡA	1	2～	演習	30							
		韓国語ⅡB	1	2～	演習	30							
		韓国語ⅢA	1	2～	演習	30							
		韓国語ⅢB	1	2～	演習	30							
		歴史学A	2	1～	講義	15							
		歴史学B	2	1～	講義	15							
		地理学A	2	1～	講義	15							
		地理学B	2	1～	講義	15							
		倫理学A	2	1～	講義	15							
		倫理学B	2	1～	講義	15							
		哲学A	2	1～	講義	15							
		哲学B	2	1～	講義	15							
		文学A	2	1～	講義	15							
		文学B	2	1～	講義	15							
		国語表現法A	2	1～	講義	15							
		国語表現法B	2	1～	講義	15							
		美学A	2	1～	講義	15							
		美学B	2	1～	講義	15							
		比較文化論A	2	1～	講義	15			選	選	選		
		比較文化論B	2	1～	講義	15			選	選	選		
		文化人類学A	2	1～	講義	15			選	選	選		
		文化人類学B	2	1～	講義	15			選	選	選		
		社会学A	2	1～	講義	15							
		社会学B	2	1～	講義	15							
		法学A（国際法を含む）	2	1～	講義	15							
		法学B（国際法を含む）	2	1～	講義	15							
		統計学A	2	1～	講義	15						選必	
		統計学B	2	1～	講義	15						選必	
		心理学A	2	1～	講義	15							
		心理学B	2	1～	講義	15							

・「必・選・選必」は希望する免許・資格取得と卒業に対する印

科目区分		科目名	単位数	履修年次	授業方法	1単位時間数	卒業所要単位	卒業必修	中一種(社会)	高一種(公民)	中一種(社会)高一種(公民)	認定心理士	公認心理師
Ⅱ群	外国語・教養選択科目	社会心理学A	2	1～	講義	15	(16単位)						
		社会心理学B	2	1～	講義	15							
		政治学A（国際政治を含む）	2	1～	講義	15							
		政治学B（国際政治を含む）	2	1～	講義	15							
		情報社会科学A	2	1～	講義	15							
		情報社会科学B	2	1～	講義	15							
		環境科学A	2	1～	講義	15							
		環境科学B	2	1～	講義	15							
		代数学	2	1～	講義	15							
		解析学	2	1～	講義	15							
		数学概論A	2	1～	講義	15							
		数学概論B	2	1～	講義	15							
		物理学A	2	1～	講義	15							
		物理学B	2	1～	講義	15							
		化学A	2	1～	講義	15							
		化学B	2	1～	講義	15							
		生物学A	2	1～	講義	15							
		生物学B	2	1～	講義	15							
		科学史A	2	1～	講義	15							
		科学史B	2	1～	講義	15							
		日本国憲法	2	1～	講義	15			必	必	必		
		健康と運動の科学	2	1～	講義	15							
		体育実技A	1	1～	実技	30			必	必	必		
		体育実技B	1	1～	実技	30			必	必	必		
		情報処理	2	1～	演習	15			必	必	必		
		マナーの基本	2	1～	講義	15							
		キャリアデザイン	2	1～	講義	15							
		コミュニケーション能力を磨こう	2	1～	講義	15							
		データサイエンス基礎	2	1～	講義	15							
		教養特講（講義）	2	1～	講義	15							
		教養特講（演習）	1	1～	演習	30							
		海外留学	1～20	2～	講義	15	(単位認定)						
					演習	30	(単位認定)						
Ⅲ群	専攻必修科目	フレッシュマンセミナー	1	1	演習	30	1単位	必	必	必	必	必	必

・「必・選・選必」は希望する免許・資格取得と卒業に対する印

IV
心理学

科目区分			科目名	単位数	履修年次	授業方法	1単位時間数	卒業所要単位	卒業必修	中一種(社会)	高一種(公民)	中一種(社会)高一種(公民)	認定心理士	公認心理師
IV群	専門選択科目	専攻専門科目	心理学概論A	2	1～	講義	15	74単位			選必	選必	選必	必
			心理学概論B	2	1～	講義	15				選必	選必	選必	必
			社会・集団・家族心理学	2	1～	講義	15				選	選	選必	必
			心理学研究法	2	1～	講義	15						選必	必
			心理統計の基礎	2	1～	講義	15							
			心理学統計法Ⅰ	2	2～	講義	15						選必	必
			心理学統計法Ⅱ	2	3～	講義	15						選必	必
			心理学実験Ⅰ	4	2～	演習	15						選必	必
			心理学実験Ⅱ	4	2～	演習	15						選必	必
			学習・言語心理学	2	2～	講義	15						選必	必
			知覚・認知心理学	2	2～	講義	15						選必	必
			発達心理学	2	2～	講義	15				選	選	選必	必
			青年心理学	2	2～	講義	15				選	選	選必	
			神経・生理心理学	2	2～	講義	15						選必	必
			比較心理学	2	2～	講義	15						選必	
			感情・人格心理学	2	2～	講義	15				選	選	選必	必
			司法・犯罪心理学	2	2～	講義	15							必
			臨床心理学概論	2	2～	講義	15						選必	必
			健康・医療心理学	2	2～	講義	15						選必	必
			精神疾患とその治療	2	2～	講義	15							必
			障害者・障害児心理学	2	2～	講義	15						選必	必
			環境心理学	2	2～	講義	15				選	選	選必	
			産業・組織心理学	2	2～	講義	15						選必	必
			教育の測定と評価	2	3～	講義	15						選必	
			外書講読	2	3～	演習	30							
			精神分析学	2	2～	講義	15						選必	
			体育心理学	2	2～	講義	15							
			ゼミナール	4	3～	演習	30						選必	
			心理学特講Ⅰ（講義）	2	1～	講義	15							
			心理学特講Ⅰ（演習）	1	1～	演習	30							
			心理学特講Ⅱ（講義）	4	1～	講義	15							
			心理学特講Ⅱ（演習）	2	1～	演習	30							
			キャリア心理学	2	1～	講義	15							
			公認心理師の職責	2	2～	講義	15							必
			教育・学校心理学	2	1～	講義	15						[選必]	必

・「必・選・選必」は希望する免許・資格取得と卒業に対する印
・〔選必〕…教員免許を希望しない者のみ履修可能

科目区分			科目名	単位数	履修年次	授業方法	1単位時間数	卒業所要単位	卒業必修	中一(社会)	高一(公民)	中一(社会)高一(公民)	認定心理士	公認心理師
Ⅳ群	専門選択科目	専攻専門科目	心理的アセスメント	2	2～	講義	15	(74単位)					選必	必
			心理学的支援法	2	2～	講義	15							必
			人体の構造と機能及び疾病	2	2～	講義	15							必
			福祉心理学	2	2～	講義	15							必
			関係行政論	2	2～	講義	15							必
		教科専門科目	日本史概論	2	1～	講義	15			必		必		
			外国史概論	2	1～	講義	15			必		必		
			地理学概論（地誌を含む）	2	1～	講義	15			必		必		
			法学概論（国際法を含む）	2	1～	講義	15			選必	選必	選必		
			政治学概論（国際政治を含む）	2	1～	講義	15			選必	選必	選必		
			社会学概論	2	1～	講義	15			選必	選必	選必		
			経済学概論（国際経済を含む）	2	1～	講義	15			選必	選必	選必		
			行動経済学	2	2～	講義	15			選	選	選		
			倫理学概論	2	1～	講義	15			選必	選必	選必		
			哲学概論	2	1～	講義	15			選必	選必	選必		
			論理学概論	2	1～	講義	15			選	選	選		
		教職専門科目	教育基礎論	2	1～	講義	15			必	必	必		
			教師論	2	1～	講義	15			必	必	必		
			教育制度論	2	2～	講義	15			必	必	必		
			教育心理学	2	1～	講義	15			◆必	◆必	◆必	<選必>	
			特別支援教育	2	2～	講義	15			必	必	必		
			教育課程論	2	1～	講義	15			必	必	必		
			道德教育の理論と方法	2	2～	講義	15			必	選	必		
			総合的な学習の時間の理論と方法	2	3～	講義	15			必	必	必		
			特別活動の理論と方法	2	2～	講義	15			必	必	必		
			教育方法・技術論	2	1～	講義	15			◆必	◆必	◆必		
			ICT活用の理論と方法	2	2～	講義	15			◆必	◆必	◆必		
			生徒・進路指導の理論と方法	2	2～	講義	15			必	必	必		
			教育相談の理論と方法	2	2～	講義	15			必	必	必		
			社会科教育法Ⅰ	2	2～	講義	15			◆必		◆必		
			社会科教育法Ⅱ	2	2～	講義	15			◆必		◆必		
			社会科教育法Ⅲ	2	2～	講義	15			◆必		◆必		
			社会科・公民科教育法	2	2～	講義	15			◆必	◆必	◆必		
			公民科教育法	2	2～	講義	15				◆必	◆必		

・「必・選・選必」は希望する免許・資格取得と卒業に対する印
 ・◆…該当資格希望者のみ履修可能
 ・<選必>…教員免許希望者のみ履修可能

科 目 区 分			科 目 名	単位数	履修 年次	授業 方法	1単位 時間数	卒業所要単位	卒業 必修	中一種 (社会)	高一種 (公民)	中一種 (社会) 高一種 (公民)	認定 心理士	公認 心理師	
Ⅳ群	専 門 選 択 科 目	門 教 科 職 目 専	比較教育論	2	2～	講義	15	(74単位)		選	選	選			
			人権教育	2	3～	講義	15			選	選	選			
		学 科 共 通 科 目	福祉とボランティア	2	1～	講義	15								
			教育の倫理学	2	1～	講義	15								
			レクリエーション理論	2	2～	講義	15								
			レクリエーション実技	1	2～	演習	30								
			レクリエーション実習（◆レ）	1	3～	実習	30								
			野外運動A（キャンプ）	1	1～	演習	30								
			野外運動B（雪上）	1	1～	演習	30								
			救急法	2	1～	講義	15								
			Teaching English to Children	2	2～	講義	15								
			e－ラーニング	1	1～	演習	30								
			教育情報処理	2	1～	演習	15								
			社会人口学	2	1～	講義	15								
			家族社会学	2	1～	講義	15								
			TOEICⅠ	1	1～	演習	30								
			TOEICⅡ	1	2～	演習	30								
			TOEFLⅠ	1	1～	演習	30								
			TOEFLⅡ	1	2～	演習	30								
			Picture Books	2	1～	講義	15								
		特 講	専門特講（講義）	2	1～	講義	15								
			専門特講（演習）	1	1～	演習	30								
Ⅴ群	卒業研究	卒業研究	4	4	演習	30	4単位	必	必	必	必	必	必		
自由選択科目			・Ⅱ群の最低修得単位を超えた単位数 ・Ⅳ群の最低修得単位を超えた単位数 ・他学部・他専攻科目（指定科目）					25単位							
卒 業 所 要 単 位								124単位							

・「必・選・選必」は希望する免許・資格取得と卒業に対する印
・◆レ…レクリエーション・インストラクターの登録者で、教育実習を履修していない者のみ履修可能

科目区分	科目名	単位数	履修年次	授業方法	1単位時間数	卒業所要単位	中一種(社会)	高一種(公民)	中一種(社会) 高一種(公民)	認定心理士	公認心理師
実習科目	教育実習の事前事後指導S	1	3～	講義	30	卒業単位に含まれない (注1)	◆必	◆必	◆必		
	中等教育実習Ⅰ	4	3～	実習	30		◆必		◆必		
	中等教育実習Ⅱ	2	3～	実習	30			◆必			
	中等教育実習Ⅲ	2	3～	実習	30		※許可された者のみ				
	教職実践演習(中・高)(注2)	2	4	演習	15		◆必	◆必	◆必		

(注1) 教育実習の事前事後指導と該当の実習が完了しないと単位は付与されない

(注2) 教育実習を修了していないと履修できない

・「必・選・選必」は希望する免許・資格取得と卒業に対する印

・◆…該当資格希望者のみ履修可能

科目区分	科目名	単位数	履修年次	授業方法	1単位時間数	卒業所要単位	中一種(社会)	高一種(公民)	中一種(社会) 高一種(公民)	認定心理士	公認心理師
公認心理師 実習・演習科目	心理実習(注3)	2	3～	実習	40	卒業単位に含まれない					◆必
	心理演習Ⅰ(心理面接)(注3)	1	3～	演習	30						◆必
	心理演習Ⅱ(心理検査)(注3)	1	3～	演習	30						◆必

(注3) 履修制限を行う場合がある。履修手続き方法の詳細は、年度始めに掲示やガイダンス等で確認すること。

3. 心理学専攻 卒業・免許別所要単位数

卒業所要単位	124		
免許名	中一種免(社会)	高一種免(公民)	中一種免(社会) 高一種免(公民)
実習科目(注4)	7	5	7
合計単位	131	129	131

(注4) 希望する免許に開設された実習科目の履修を必要とするが、卒業所要単位には含まれない。

履修要綱等の配付について

この履修要綱は入学時に配付し、卒業まで使用します。(在学中1度の配付)

履修要綱にはカリキュラムや履修についての基準、試験および成績に関する事項など重要な内容が掲載されています。

また、毎年度の最新の情報は、『時間割』、『履修登録の手引き』や『学生のとびき（キャンパスガイド）』にてお知らせします。

2025年度 履 修 要 綱

白鷗大学 教育学部

2025年4月1日 発行

編集・発行 白鷗大学事務局

〒323-8585

栃木県小山市大行寺1117番地

電話 0285-22-8900(代表)

ホームページ <https://hakuoh.jp/>



緑のチェッカーは五大陸を、
青いストライプは三大洋を表し、
広く世界を見つめる姿勢を表現しています。

白鷗大学 教育学部

2025年度生